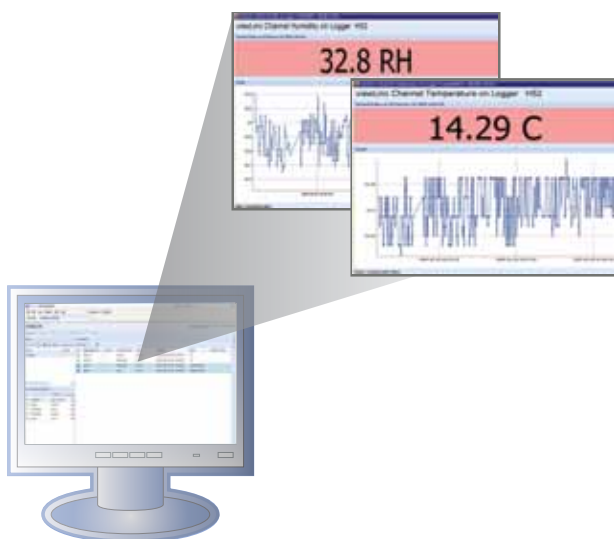


管理者ガイド

viewLinc 3.6

バイサラ ベリテック viewLinc ソフトウェア



著作権

著作権 © 2011 Vaisala Canada Inc. 著作権所有。

Vaisala Canada Inc. の書面での明示された許可なしで商用目的での本文書の全部あるいは一部の複製、配布、出版、変更、あるいは編入を行うことは許可されません。

Vaisala Canada Inc.
13775 Commerce Parkway
Richmond, BC V6V 2V4
Canada

商標

Vaisala Canada Inc.、ヴァイサラ Veriteq、ヴァイサラ Veriteq vLog、ヴァイサラ Veriteq viewLinc、およびヴァイサラ Veriteq Spectrum は Vaisala Canada Inc の登録商標です。

Windows は Microsoft Corporation の登録商標です。

すべてのその他の各商標は、それらの各自所有者の所有物です。

免責および責任の制限

Vaisala Canada Inc およびその各関連会社は、本マニュアルの使用から派生するいかなる損害あるいは損失について一切責任を負いません。

Vaisala Canada Inc およびその各関連会社は、本ソフトウェアの使用で潜在的に発生する可能性のある各サードパーティーによるいかなる損害あるいは請求について一切責任を負いません。Vaisala Canada Inc およびその各関連会社は、ハードウェア誤動作の結果として発生するデータの削除による起因するいかなる損害あるいは損失について一切責任を負いません。データ損失を防止するためにすべての重要データの各バックアップ コピーの作成を徹底されるようお願いいたします。

Vaisala Canada Inc は、ヴァイサラ Veriteq データ ロガー、ヴァイサラ 300 シリーズ変換機、またはソフトウェア、その市販性、あるいはその特定目的への適合性に関連して明示、あるいは暗示に関わらずいかなる保証も

行いません。この包含される各保証項目の除外は、いくつかの州によって許可されていません。このような場合には、この除外はお客様に適用されない場合もあります。Vaisala Veriteq は、さまざまなネットワーク システムを使用して試験されています。しかしながら、可能であるハードウェアおよびネットワークの各構成の膨大な組み合わせの数は、それぞれの状況下での試験を不可能にしています。ヴァイサラ Veriteq viewLinc ソフトウェアを使用している問題がある場合には、Vaisala 株式会社にご連絡ください。

技術サポート

日本地域においての技術サポートについては、03-3266-9611 にお電話いただくか、または、日本地域以外のお客様については、「ヘルプの表示」、ページ 1 をご参照ください。

電子メール aftersales.asia@vaisala.com へご連絡ください。

文書管理番号：M211342JA-A

発効日付：April 2011

目次

このマニュアルについて	v
このマニュアルの対象者	v
このマニュアルの構成方法	v
この文書内で使用される表記方法	vi
関連文書およびソフトウェア製品	vi
サポート情報	vi
第章:始める前に	1
viewLinc の概説	2
システム要件	5
viewLinc のインストール	7
ロガーの接続	7
Spectrum ソフトウェアまたは vLog	
ソフトウェアのインストール	12
viewLinc ソフトウェアのインストール	13
ViewLinc へのログイン	15
管理者向けロード マップ	17
ヘルプの表示	18
第章:チャンネル	19
チャンネルについて	20
チャンネルとは何ですか?	20
「マイ チャンネル」はどこにあるのですか?	20
チャンネル画面を理解する	21
ラージ チャンネル ビューを開く	23
各リアルタイムのグラフ	24
ラージ チャンネル ビューでのグラフの読み取り	25
ラージ チャンネル ビュー内でのグラフ	
詳細の表示	26
ラージ チャンネル ビューからのアラームの受信確認	27
チャンネルのゾーン内への整理	27
ゾーンの作成	28
ゾーンの編集	28

ゾーンへのチャンネルの割り当て	29
ゾーンの非アクティブ化	30
チャンネル カラムの整理	31
チャンネル カラムの非表示および表示	31
第章: アラーム	33
アラームについて	34
アラームがトリガーされると何が起きるのですか?	
35	
アラーム テンプレートの作成	36
しきい値アラーム	42
しきい値アラームの設定	42
しきい値アラームの編集	44
しきい値アラームの無効化	44
しきい値アラームの非アクティブ化および再アク ティブ化	45
通信アラーム	45
通信アラームの設定	46
通信アラームの編集	47
通信アラームの無効化	48
ロガー アラーム	49
ロガー アラームの設定	49
ロガー アラームの編集	49
ロガー アラームの無効化	50
アラームの受信確認	50
アラームの一時停止	51
第章: システム設定	53
ロガー検出	54
ロガーの追加	54
ロガーの切り替え	56
ロガー の削除	58
ロガーのプロパティおよびエイリアスの編集 .	59
チャンネル プロパティおよびエイリアスの編集 .	60

電子メール設定の構成	61
アラーム電子メール テンプレートの編集	63
ユーザーとの作業	64
コンタクト スケジュール の作成	66
ユーザー アカウントの作成	67
ユーザーおよびパスワードの編集	69
ユーザーの非アクティブ化	69
ユーザーの再アクティブ化	69
ロガーおよびチャネル説明長の選択 (エイリアス)	69
温度測定単位の優先項目の選択	70
セッション有効期限の設定	71
電子メール用事前構成済みコメント	71
第章: イベント	75
イベントの表示	76
イベントへのコメントの追加	77
イベント ログの印刷	77
「イベント ログ」のエクスポート	78
第章: レポート	79
履歴データについて	80
履歴データ レポートの生成	80
アラーム履歴レポートの生成	81
チャネル履歴レポートの生成	83
新しいレポートの作成	85
レポートの削除	86
第章: 読み込み	87
転送および転送スケジュール	88
転送スケジュールの作成	88
即時データ転送の実行	90
転送スケジュールの編集	90

内容

転送スケジュールの非アクティブ化	91
転送スケジュールの一時的な無効化	91
補足: FAQ & トラブルシューティング	93
索引	105

このマニュアルについて

この viewLinc 3.6 『管理者ガイド』には viewLinc システムをインストール、構成および操作するために必要な情報が含まれています。『クイックスタート ガイド』を viewLinc をインストールするためのグラフィカルな概説として参照することも可能です。「管理者」でない場合、viewLinc を使用して実行する標準的なタスクに関する情報については『ユーザーガイド』を参照してください。

このマニュアルの対象者

このマニュアルは、viewLinc をサーバーへインストールし、その関係するコンポーネントのインストールおよび構成する管理者向けのものです。インストールおよび、構成が完了すると、エンドユーザーがネットワーク上でロガーの読み取りデータを表示、監視することが可能になります。このマニュアルは、管理者へのしきい値アラームの設定、電子メールアラーム通知の構成、チャンネルの構成、レポートの定義、およびロガーデータ転送スケジュールの設定方法等を含むいくつかのトピックを取り扱っています。

このマニュアルの構成方法

この viewLinc 3.6 『管理者ガイド』は以下の章により、構成されています：

第章：始める前に。 viewLinc 概説、ハードウェアおよびソフトウェア要件、必須のインストレーション指示事項、ログイン方法を含んでいます。

第章：チャンネル。 チャンネルの機能説明、「マイ チャンネル」の使用方法、ラージチャンネルビューの開き方、およびゾーン内へのチャンネルの整理方法を取り扱っています。この章では、一般的な viewLinc ユーザーおよび管理者の両者に関連したトピックを扱っています。

第章：アラーム。 アラーム。しきい値の超過またはロガーとシステム間のデータ通信が機能していない場合のシステムを監視して通知するためのアラームの作成、編集、非有効化、および一時停止するための情報を含んでいます。アラームの受信確認方法を含んでいます。

第章：システム設定。 管理者向けの特定の情報が含まれており、ユーザー アカウントの作成、パスワード ポリシーの設定、アラーム用の電子メール サーバーの構成、表示する温度単位の選択、および「マイ チャンネル」内に表示されるロガーの選択と表示方法の変更等が含まれています。

第章：イベント。 イベント ログのフィルターおよび印刷の方法を含んでおり、転送、アラーム、および受信確認での詳細が含まれています。

第章：レポート。履歴データの定義、そのデータの活用方法、レポートの生成を含んでいます。

第章：読み込み。読み込み。vLog または Spectrum ソフトウェアを使用した分析用の PC へのヴァイサラ Veriteq ロガーデータの読み込み方法についての情報を含んでいます。

補足：**FAQ & トラブルシューティング**。一般的なトラブルシューティングの質問に回答しており、viewLinc サービスの停止および開始方法、viewLinc と共にインストールされている機能、および一般的な問題のトラブルシューティングの方法が含まれています。

この文書内で使用される表記方法

この文書は以下の表記方法を使用しています：

- 操作する順序は垂直な線で区切って表示されています。例：
『viewLinc で、[システム] | [ロガー] と選択します』
- 「メニュー」の選択肢で選択するアイテム、およびボタンの名前が太字で表示されます。

関連文書およびソフトウェア製品

viewLinc に関するヘルプには、『viewLinc クイックスタート ガイド』をご参照ください。

データロガーの設定およびロガー履歴データのグラフまたはテキストファイルとしての表示と印刷方法については、ヴァイサラ Veriteq Spectrum ソフトウェアまたは vLog ソフトウェアおよびこれらに関連した『クイックスタート ガイド』をご利用ください。ヴァイサラ 300 シリーズ変換機のインストールについては、『ヴァイサラ 300 シリーズ変換機ユーザーガイド』をご利用ください。このマニュアルについて。

サポート情報

日本地域において、技術サポートが、午前 9 時～午後 5 時、平日月曜日～金曜日にてご利用可能です。

03-3266-9617 (または 03-3266-9611)(日本国内電話番号)。また aftersales.asia@vaisala.com 宛に電子メールしていただくか、または www.vaisala.com/veriteq にてご参照ください。セールス、価格、お見積り、または一般的情報についてのお問い合わせは、03-3266-9611(日本国内電話番号)までご連絡お願いいたします。

日本地域以外についてのサポートについては、「第 1 章：始める前に」、ページ 1 をご参照ください。このマニュアルについて。

第章 : 始める前に

本セクションに含まれている項目 :

- viewLinc ヴァイサラ Veriteq 環境モニタリングシステム (CMS)
- ハードウェアおよびソフトウェアの要件
- viewLinc のインストール
- 状態を監視するにはインターネット ブラウザーから viewLinc にログインする
- 管理者向けロード マップ

viewLinc の概説

ようこそ viewLinc 3.6 へ。viewLinc を使用することで、サポートされているバージョンの Microsoft® Internet Explorer® または Mozilla® Firefox® インターネット・ブラウザを使用してネットワーク経由で Veriteq データ ロガー読み取り値をローカルで簡単に監視することが可能です。

viewLinc 3.6 で可能な各機能：

- ローカルまたはリモート PC から複数のデータロガーの環境の監視
- グラフィック形式でのリアルタイム データの表示
- 履歴データおよびアラームレポートの生成
- モニター中の状態が準拠外であるかまたはネットワーク通信の問題が発生した場合の、可視化アラームまたは電子メールアラームの受信
- いつアラームがトリガーしたか、受信確認されたか、またはロガー通信問題が発生したかを、自動文書化されたロガーイベントを用いて解析
- ヴァイスラ Veriteq ロガー データ (「履歴データ」として参照) のスケジュール転送。このデータはヴァイスラ Veriteq Spectrum または vLog ソフトウェアを利用して表示およびグラフ化できます
- 稼働している各ロガーまたは各ゾーンを容易に識別
- データの監査証跡を中断せずに、校正または交換目的でのロガーの切り替え
- アラーム通知用の事前構成済みのコメントの作成
- 再利用可能なアラーム テンプレートの作成

インストールされると、viewLinc ヴァイスラ Veriteq 環境モニタリングシステム は、各ソフトウェアコンポーネント (viewLinc を含む)、および各ハードウェアコンポーネント (データロガー、サポート済みのインターネットブラウザを持つ PC、および各ロガーの PC への接続形式に基づくいくつかのケーブルなど、ヴァイスラ Veriteq vNet または Digi ネットワークデバイスを含む) で構成されています。

ご利用の PC にどのように使用するロガーが接続されるのかは非常に重要な管理上の決断です。4 つの方法があり、これらは特定のハードウェアを必要とします。最も便利な方法は、vNet または Digi デバイスを接続している PC に各ロガーを接続する方法です。これらのオプションは、表 1 で説明されています。

方法	接続の形式	詳細
vNet デバイス	イーサネット	<ul style="list-style-type: none"> イーサネットネットワークを経由した PC へのデータ ロガーの接続を可能にし、設備内での長距離での PC と各ロガーの分離を可能にします vNet ドライバーのインストールが必要となります (付属) vNet デバイスの使用が必要となります
Digi デバイス	イーサネット	<ul style="list-style-type: none"> イーサネットネットワークを経由した PC へのデータ ロガーの接続を可能にし、設備内での長距離での PC と各ロガーの分離を可能にします Digi ドライバーのインストールが必要となります (付属) Digi デバイスの使用が必要となります

表 1: ロガーの PC への接続方法

方法	接続の形式	詳細
USB ポート	ヴァイサラ Veriteq USB ケーブル	<ul style="list-style-type: none"> 各データ ロガーの直接またはイーサネット ネットワーク (ロガー ホストがインストールされている場合) を経由しての viewLinc サーバーへの接続を可能にします USB ドライバー (提供済み) のインストールが必要となり、PC 上で USB 接続を使用します USB ポートからロガー ケーブルに接続されます
シリアル ポート	ヴァイサラ Veriteq シリアル ポート ケーブル	<ul style="list-style-type: none"> 各データ ロガーの直接でのまたはイーサネット ネットワーク (ロガー ホストがインストールされている場合) を経由しての viewLinc サーバーへの接続を可能にします PC 上でシリアル ポートが必要となります シリアル ポートからロガー ケーブルに接続されます

表 1: ロガーの PC への接続方法

ご使用のシステムで必要とされる場合、これらの方法を組み合わせた使用もまた可能です。

下記の概要システム要件はすべてのインストール オプションに適用されます。

システム要件

viewLinc のインストールに必要な要件:

- ヴァイサラ Veriteq データ ロガーまたは ヴァイサラ 300 シリーズ変換機 (本ガイドおよび viewLinc において両者は「ロガー」として参照されます)。
- PC (以下本文書内で viewLinc サーバーとして参照されます)
- ヴァイサラ Veriteq ケーブル (各ロガーの Digi デバイスへの接続あるいは各ロガーの viewLinc サーバー上の USB またはシリアルポートへの接続にはそれぞれ特殊なケーブルが存在しています)
- (オプション) vNet デバイス、イーサネット接続を使用した各ロガーの viewLinc サーバーへの接続用です
- (オプション) Digi デバイス、イーサネット接続を使用した各ロガーの viewLinc サーバーへの接続用です

viewLinc サーバー要件

この viewLinc サーバー PC は、以下の各要件を満足する必要があります:

- 24 時間、365 日利用可能であること。
- 350 MB の空きアプリケーション ディスク領域があること。
- 以下のうちの 1 つのオペレーティング システムを使用していること:
 - Microsoft® Windows XP
 - Microsoft® Windows 7 または Windows Server 2008 (32 または 64 ビット バージョン)
 - インストールの規模に応じてその他のオペレーティング システムが利用できます
- viewLinc サーバー コンピューターからの viewLinc のご使用を計画されている場合、サポートされるインストール済みのインターネット ブラウザー、(Microsoft® Internet Explorer® 6.0 またはそれ以降、Mozilla® Firefox® 3.5 またはそれ以降が推奨しています) が必要です。
- 履歴データベースは、200KB/チャンネル/日が要求されます。データベースのデフォルトの場所は、アプリケーション フォルダであり、このアプリケーション フォルダの場所はインストールの際に指定することが可能です。

ご使用されるチャンネル数に依存して、viewLinc サーバー コンピューターもまた以下の要件を満足しなければなりません：

ラージ サイズ インストレーション (300 ~ 1000 チャンネル)

- 専用コンピューター
 - 3.2 GHz、クアッド コア
 - 4 GB RAM
 - 200KB/チャンネル/日をサポートする十分な HDD 領域
- 例：400 チャンネルをご使用の場合、通年でおおよそ 30GB (400x200x365) の領域が必要となります。

ミディアム サイズ インストレーション (20 ~ 299 チャンネル)

- ご使用のコンピューターはその他のアプリケーションとの共用も可能です
 - 1.6 GHz デュアル コア
 - 4 GB RAM
 - 200KB/チャンネル/日をサポートする十分な HDD 領域
- 例：40 チャンネルをご使用の場合、通年でおおよそ 3GB (40x200x365) の領域が必要となります。

スモール インストレーション (<20 チャンネル)

- 1.6 GHz
 - 2 GB RAM
 - 200KB/チャンネル/日をサポートする十分な HDD 領域
- 例：4 チャンネルをご使用の場合、通年でおおよそ 300MB (4x200x365) の領域が必要となります。

エンド ユーザー PC 要件

viewLinc の管理に使用されるネットワーク上のコンピューターの要件：

- 2.4 GHz
- 2 GB RAM
- サポートされるインターネット ブラウザーがインストール済みであること (Microsoft Internet Explorer 6.0 またはそれ以降のバージョン、Mozilla Firefox 3.5 またはそれ以降のバージョンを推奨しています)。

viewLinc のインストール

本セクションでは、ロガーがシステムに接続される 4 つの方法の説明を含む、viewLinc のサーバー上またはリモート ホスト上へのインストール方法を概説しています。4 つの方法とは：

- vNet デバイスを使用しての各ロガーのネットワークへの接続
- Digi デバイスを使用しての各ロガーのネットワークへの接続
- USB ポートを使用しての各ロガーの viewLinc サーバーまたはリモート ホストへの接続
- シリアル ポートを使用しての各ロガーの viewLinc サーバーまたはリモート ホストへの接続

300 シリーズ変換機ロガーを接続されようとする場合、これらはワイヤレス、または Digi デバイスの使用してかのいずれかで接続されます。詳細については、ご使用のヴァイサラ製品ユーザーガイドをご参照ください。

viewLinc のインストールの詳細なグラフィック表示については、関連する『ヴァイサラクイック スタート ガイド』をご参照ください。vNet または Digi デバイスを使用するものおよび USB/シリアルポートを使用するものには異なるバージョンが存在しています。『クイック スタート ガイド』の入手につきましては、www.vaisala.com/veriteq を参照されるかまたはヴァイサラ製品を購入した代理店までご連絡ください。

ロガーの接続

ご使用のロガーをネットワークまたは適切な PC へ接続するための方法を以下から選択してください。

方法 1: vNet デバイスの使用

以下の手順は、vNet デバイスを使用してご使用の各データ ロガーをネットワークに接続するための方法を示しています。

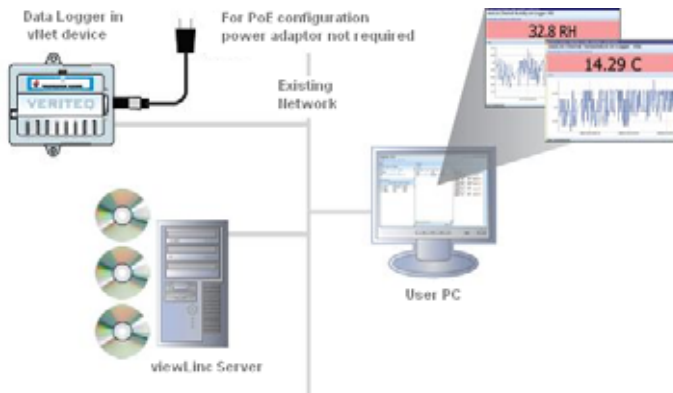


図 1: vNet デバイスを使用する viewLinc システムの概説

メイン ハードウェアの接続

- 1 データ ロガー下部にある保護ラベルを取り除きます。
- 2 データ ロガーを vNet デバイスに接続します。
- 3 vNet デバイスをイーサネット接続口に接続して、(PoE 電力供給未対応の場合は) 電源に接続します。電源が vNet デバイスに接続されている場合、赤色 LED ライトが 7 ~ 8 秒間点滅してから、連続点灯に移行します。ネットワーク接続が確立されている場合、この赤色 LNK LED が点灯され連続点灯して、時折緑色 ACT LED が点滅します。

注意： 確実な接続を確保するには、電源の樽状コネクタを本デバイスに挿入して、右側に 1/4 回転させて確実にロックさせます。ご使用のネットワークが Power Over Ethernet (イーサネット経由での電源供給) をサポートしている場合、電源を接続する必要はありません。

vNet デバイスのインストールについての詳細は、『vNet ユーザーガイド』をご参照ください。

ヴァイサラ Veriteq ドライバーのインストール本セクションは、イーサネット接続を使用して各ヴァイサラ Veriteq ロガーをネットワークに接続するための

vNet デバイス用ドライバーのインストールを取り扱っています。ご使用される各 vNet デバイスについてこれらのステップのすべてを繰り返してください。

vNet デバイスの検出

- 1 担当の IT 部門からご使用の vNet デバイス用に予約済み IP アドレス (推奨しています) または固定 IP アドレスを取得してください。使用されるネットワークのポリシーが、DHCP を使用する IP アドレスの予約を必要とする場合、各指示は www.vaisala.com/veriteq をご参照ください。
- 2 vNet デバイス ドライバー CD を該当の viewLinc サーバーに挿入します。
- 3 デバイス セットアップ ウィザードが自動的に起動されます。
【次へ】をクリックしてください。
- 4 ご使用の vNet デバイスの側面に表示されている MAC アドレスに一致するデバイスを選択してから、【次へ】をクリックしてください。

注意: ご使用のデバイスが該当のサーバーと異なったサブネット マスク上にある場合、その vNet デバイスの IP アドレスを知る必要があり、Veriteq vNet デバイス ドライバー CD 上の RealPort フォルダから RealPortSetup.exe インストーラーを起動する必要があります。

RealPort の構成およびドライバーのインストール

- 1 「ネットワーク設定の構成」画面で、静的 IP アドレス (担当の IT 部門により提供済み) を入力してください。【次へ】を 2 回クリックしてください。
 - 2 「RealPort 設定」画面にて、[このコンピューター上に RealPort をインストールする]をクリックしてから、【次へ】をクリックします。
 - 3 【次へ】をもう一度クリックしてください。この設定が保存されます。
 - 4 【完了】をクリックします。
- 【バイサラ ヴァイサラ **Veriteq** ベリテック ドライバーをインストールする】を各 vNet デバイスごとに繰り返してください。

方法 2: Digi デバイスの使用

以下の手順は、ご使用の Digi デバイスを使用してご使用のデータロガーをネットワークに接続するための方法を示しています。

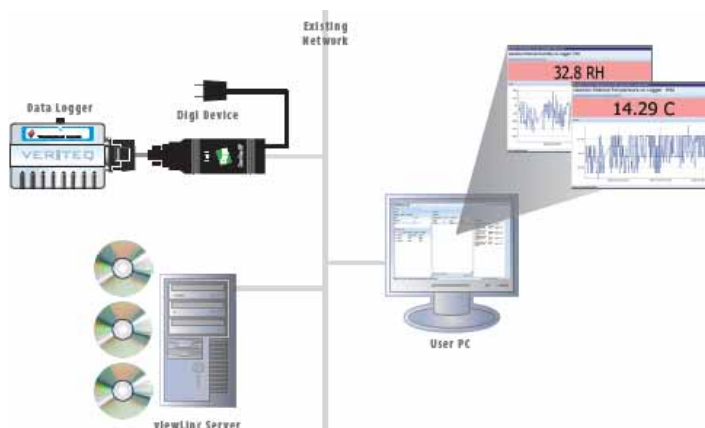


図 2: Digi デバイスを使用する viewLinc システムの概説

メイン ハードウェアの接続

- 1 Vaisala Veriteq ケーブルを使用して使用するデータ ロガーを Digi デバイスに接続します。
- 2 使用する Digi デバイスを電源およびイーサネット接続口に接続します。

注意： これらの指示は Digi One SP モデルを対象としています。その他の Digi モデルについては、www.vaisala.com/veriteq をご参照ください。

Digi ドライバーのインストール

この章ではイーサネット接続を使用してネットワークにヴァイサラ Veriteq ロガーまたはヴァイサラ 300 シリーズ変換機を接続するための Digi デバイス用のドライバーのインストールを取り扱っています。ご使用になられる各 Digi デバイスについてこれらのステップのすべてを繰り返してください。

Digi デバイスの検出

- 1 担当の IT 部門からご使用の Digi デバイス用に予約済み IP アドレス (推奨しています) または固定 IP アドレスを取得してください。使用されるネットワークのポリシーが、DHCP を使用する IP アドレスの予約を必要とする場合、www.vaisala.com/veriteq をご参照ください。

- 2 Digi ドライバー CD を viewLinc サーバーに挿入します。
- 3 Digi デバイス セットアップ ウィザードが自動的に起動されます。【次へ】をクリックしてください。
- 4 ご使用の Digi デバイスの底面に記載されている MAC アドレスに一致するデバイスを選択してください。【次へ】をクリックしてください。

注意: ご使用のデバイスが該当のサーバーと異なったサブネット上にある場合、その Digi デバイスの IP アドレスを知る必要があります。Digi ドライバー CD 上の RealPort installer を起動する必要があります。

RealPort の構成およびドライバーのインストール

- 1 「ネットワーク設定の構成」画面で、静的 IP アドレス (担当の IT 部門により提供済み) を入力してください。【次へ】を 2 回クリックしてください。
- 2 「RealPort 設定の構成」画面にて、[このコンピューター上に Digi RealPort をインストールする] をクリックしてください。【次へ】をクリックしてください。
- 3 【次へ】をもう一度クリックしてください。この設定が保存されます。
- 4 【完了】をクリックします。

Digi ドライバーのインストールを各 Digi デバイスで繰り返してください。

方法 3: USB ポートの使用

図 3 に示されるように、USB ポートを使用して各データ ロガーを直接それぞれの PC に接続することも可能です。

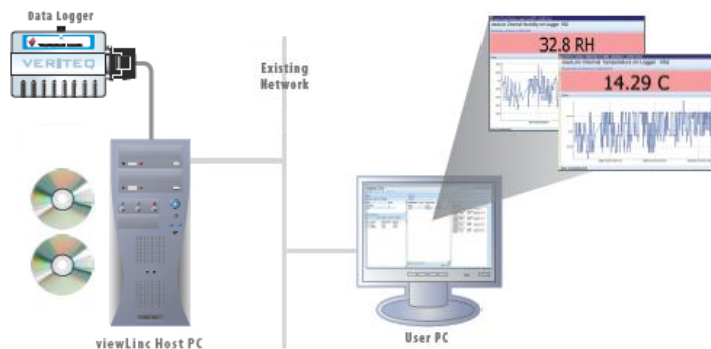


図 3: ロガーを接続するために USB ポートを使用する viewLinc システムの概説

USB ドライバーのインストール

- ▶ 提供済みのヴァイサラ Veriteq USB ケーブル ドライバー CD および『クイック スタート ガイド』を使用して、ロガーを接続しようとする PC 上に USB ドライバーをインストールします。

ハードウェアの接続

- 1 このデータ ロガーをヴァイサラ Veriteq USB ケーブルに接続します。
- 2 この USB ケーブルを使用する viewLinc サーバーまたはロガー ホストへ接続してください (viewLinc サーバー コンピューターがご利用のネットワークに接続されていることを確実にしてください)。
- 3 USB ケーブル ドライバーをインストールします。ロガー (複数) が接続されている各コンピューター上で 1 回のみインストールする必要があります。

方法 4: シリアル ポートの使用

シリアル ポートを使用して各 PC に各データ ロガーを接続することも可能です。シリアル ポートを使用する構成は、USB ポートを使用した場合と非常に似ています、図 3 をご参照ください。

ハードウェアの接続

- 1 ご使用のデータロガーをヴァイサラ Veriteq シリアル ポート ケーブルに接続します。
- 2 シリアル ポート ケーブルを使用する viewLinc サーバーまたはロガー ホスト に接続します (このコンピューターがご利用のネットワークに接続されていることを確実にしてください)。

これらのステップをすべてのデータ ロガーで繰り返します。

Spectrum ソフトウェアまたは vLog ソフトウェアのインストール

一旦、ご使用の各データ ロガーがインストールされると、Spectrum ソフトウェアまたは vLog ソフトウェアのいずれかをインストールするための準備が完了します。

注意: 300 シリーズ変換機をご使用の場合、Spectrum ソフトウェアまたは vLog ソフトウェアのインストールは要求されません。

Spectrum (非バリデート環境対象) のインストール, または vLog (バリデート環境対象) のインストールは以下を可能にします:

- サンプル間隔の設定
- チャンネルの有効化または無効化
- ロガーの指定およびチャンネルの説明
- バックアップ目的での履歴データの格納

各ヴァイサラ Veriteq ロガーが接続されているすべての PC 上に Spectrum ソフトウェアまたは vLog ソフトウェアをインストールすることが推奨されています。

インストールの指示項目については、『ベリテック Spectrum ユーザーガイド』または『vLog ユーザーガイド』をご参照ください。

viewLinc ソフトウェアのインストール

これでご利用のネットワーク上でのデータ ロガーの監視、アラームおよびレポートを実行するために使用される viewLinc をインストールするための準備が完了しました。2 つのオプションがご利用可能です:

- ネットワーク サーバー上への viewLinc ソフトウェアのインストール (1 度はインストールされる必要があります)。
- オフサイト ホストがそれに接続されている各ロガーを viewLinc サーバーに利用可能とするために PC 上に viewLinc ソフトウェアをインストールする。

viewLinc サーバー上に **viewLinc** をインストールする方法:

- 1 ご使用の viewLinc サーバー上で、viewLinc CD を挿入して、setup.exe を実行します。
- 2 インストール言語を選択してください。
- 3 **[次へ]** をクリックしてセットアップ ウィザードを開始してください。
- 4 『ライセンス契約』を参照され、これを承諾して、**[次へ]** をクリックしてください。
- 5 viewLinc プログラム ファイルおよびデータベースの格納先を選択して、**[次へ]** をクリックしてください。
- 6 **[Enterprise Server]** を選択して、**[次へ]** をクリックしてください。
- 7 以前のバージョンの viewLinc からアップグレードを実行中であり、ご使用されていた旧バージョンの viewLinc 内で使用された各設定を保持されたい場合には、**[設定のインポート]** をクリックしてください。

- 8 viewLinc サーバーは、通信用に開いている TCP ポートを必要とします。インストーラーは、ポート 80 が既定の設定値です。ポート 80 が占有されている場合にはインストーラーは新しいポート番号を提供します。このポート番号を記録してください - これは viewLinc にログインする時に必要となります。[次へ] をクリックしてください。
- 9 【インストール】をクリックしてください。
- 10 【完了】をクリックします。

USB ケーブルまたはシリアル ケーブルを使用して、追加のコンピューターをリモート ホストとしてセットアップすることが可能です。

viewLinc をオフサイト ホスト **PC** 上にインストールするには：

- 1 viewLinc CD を挿入して、setup.exe を実行します。
- 2 インストール言語を選択してください。
- 3 【次へ】をクリックしてセットアップ ウィザードを開始してください。
- 4 『ライセンス契約』を参照され、これを承諾して、【次へ】をクリックしてください。
- 5 viewLinc プログラム ファイルの格納先を選択して、【次へ】をクリックしてください。
- 6 【ロガー ホスト】を選択してから、【次へ】をクリックしてください。
- 7 【インストール】をクリックしてください。
- 8 【完了】をクリックします。

すべての必要な viewLinc コンポーネントがインストールされました。これでネットワーク上のあるあらゆるコンピューターに移動したり - またはご希望の場所に固定したりすることが可能となり - またあらゆるサポート済みのインターネット ブラウザを使用して各チャンネルの監視をするための viewLinc へのログインが可能となりました。

ViewLinc へのログイン

viewLinc で可能な作業：

- ロガーにより記録された環境および viewLinc 履歴データベース内に記録されている環境のモニタリング (温度および相対湿度など)。
- 条件が既定の設定の範囲外であるか、または通信障害が発生しているかした場合のアラームの受信
- その他のシステム-関連アラームの受信

アラームの設定、電子メールの設定、およびロガー データ転送のスケジュール設定などの、viewLinc の使用準備が完了したら、サポート済みのインターネット ブラウザーから viewLinc へしてください。サポートされるインターネット ブラウザーは、Microsoft Internet Explorer 6.0 またはそれ以降、または Mozilla Firefox 3.5 またはそれ以降をです。

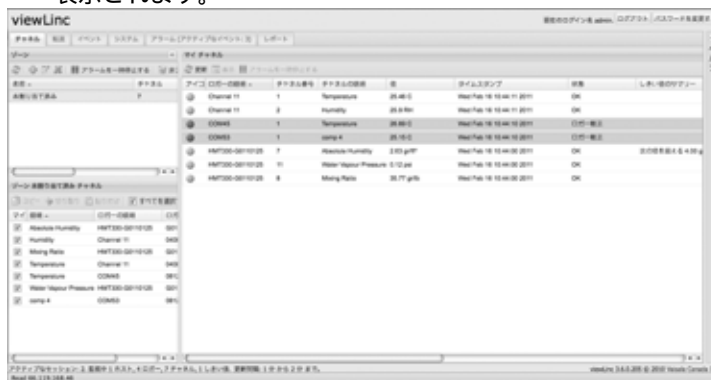
デフォルトでは、viewLinc がインストールされる時に 1 つの管理者アカウントが作成されます。そのユーザー名およびパスワードは、両方とも「admin」です。権限を与えられていないアクセスを防止するためにできるだけ速やかにこの管理者パスワードを変更されるようお願いします(「ユーザーおよびパスワードの編集」, ページ 69 を参照)

viewLinc へのログイン方法：

- 1 デスクトップ上のアイコンをダブルクリックします **VA**。
- 2 または、サポート済みのインターネット ブラウザーのアドレスボックス内に、viewLinc がインストールされているコンピューターの名前または IP アドレス、およびそのポート番号を入力してください。例: http://computername:portnumber (何もポート番号が指定されない場合、ポート番号 80 (:80) がデフォルトで使用されます)。
- 3 ログイン画面に、ご使用のユーザー名およびパスワードを入力してください。【ログイン】をクリックしてください。

注意： ここでのデフォルトの管理者ユーザー名およびパスワードは両方とも「admin」です。

- 4 メイン viewLinc 画面が現れて、利用可能なチャンネル、または (初めてログインされた場合) 空白の「マイ チャンネル」画面が表示されます。



チャンネル データが何も見られない場合には、[チャンネル] タブに移動してください。「ゾーン」エリア内で、リストからチャンネルを選択して、[更新] をクリックしてください。ここで選択済みのチャンネルのデータが表示されるようになります。

何もチャンネルが表示されない場合、ご使用のデータ ロガーが適切に接続されていない可能性があり、ご利用になるチャンネルが割り当てられていない場合か、または viewLinc 自体に障害が発生しているかの可能性があります。ヴァイサラ Veriteq データロガーを使用している場合は、ロガーの検出機能を試行してみてください。「ロガー検出」、以下を参照してください「ロガー検出」、ページ 54

注意： 担当の管理者が、システムセキュリティ確保の目的でパスワードを確認するためのダイアログを定期的に表示させるよう設定している場合があります。ダイアログが表示された場合、ご使用のパスワードを再入力してください。またはセッション有効期限を変更したり、設定するには「セッション有効期限の設定」、ページ 71

チャンネルに関する詳細については、第章：チャンネルをご参照ください。

管理者向けロードマップ

viewLinc システムをインストールしたあと、以下に示されるロードマップが viewLinc を実行するために要求されるセットアップおよび構成作業の概説として有用となることでしょう。

- 1 ヴァイサラ Veriteq ロガー プロパティを vLog または Spectrum (サンプル間隔およびデータ ロガー チャンネルなど) を使用して編集する。300 シリーズ変換機プロパティの編集については、ご使用のヴァイサラ製品の『ユーザーガイド』をご参照ください。
- 2 特定のユーザーがアラーム通知される日および時刻のスケジュールを設定する場合は、[コンタクトスケジュール]を設定してください(「コンタクトスケジュールの作成」Ⓜ ページ 66 をご参照ください)。
- 3 ユーザー アカウントの作成 (「ユーザー アカウントの作成」Ⓜ ページ 67 をご参照ください)。
- 4 温度測定単位の優先項目を選択してください (「温度測定単位の優先項目の選択」Ⓜ ページ 70 をご参照ください)。
- 5 電子メール設定を構成してください (「電子メール設定の構成」Ⓜ ページ 61 をご参照ください)。
- 6 アラーム電子メールテンプレートを編集してください (「アラーム電子メールテンプレートの編集」Ⓜ ページ 63 をご参照ください)。
- 7 アラーム テンプレートおよびしきい値テンプレートを作成してください (「アラームテンプレートの作成」Ⓜ ページ 36 をご参照ください)。
- 8 ロガーを追加するには、(「ロガーの追加」Ⓜ ページ 54 をご参照ください)。
- 9 アラームしきい値を設定および構成してください (「しきい値アラーム」Ⓜ ページ 42 をご参照ください)。
- 10 アラームを構成してください (第章: アラーム にてしきい値、通信およびロガー アラームの設定をご参照ください)。
- 11 各ゾーンを作成し、各ゾーンへチャンネルを割り当て、およびチャンネル プロパティを編集してください (「チャンネルのゾーン内への整理」Ⓜ ページ 27 をご参照ください)。

一旦、これらのセットアップ作業が完了したら、ロガー読み取りの監視、各イベントの表示および各レポートの印刷の開始の準備が完了します。vLog ソフトウェアまたは Spectrum ソフトウェア内でヴァイサラ Veriteq ロガー データを表示および分析するために転送スケジュールを設定することも可能です (「転送および転送スケジュール」Ⓜ ページ 88 をご参照ください)。

ヘルプの表示

サポートを必要とされる場合は、技術サポートがご利用可能です：

北米

Vaisala Canada Inc、午前 8 時 ~ 午後 4 時 太平洋標準時間 月曜日 ~ 金曜日、+1-866-861-3388 (または +1-604-273-6850) (いずれも現地電話番号) または電子メール veriteqsupport@vaisala.com までご連絡お願いいたします。 www.vaisala.com/veriteq もあわせてご参照ください。

セールス、価格設定、お見積り、または一般的情報についてのお問い合わせは、+1-800-683-8374 (または +1-604-273-6850) (米国電話番号) までご連絡お願いいたします。

北米以外：

helpdesk@vaisala.com

ヴァイサラ本社 (フィンランド)

Vanha Nurmijärvi ventie 21
01670 Vantaa
FINLAND
Industrial Instruments
電話：+358 9 8949 2658
ファックス：+358 9 8949 2295

日本サービス センター

東京都
新宿区
神楽坂 6 丁目 42
郵便番号 162-0825
電話：03 3266 9611
ファックス：03 3266 9610

中国サービス センター

中国
北京市
朝陽区
東三環北路霄雲路 21 号、
郵便番号 100027
電話：+86 10 5827 4100
ファックス：+86 10 8526 1155

第章：チャンネル

本セクションは管理者および一般ユーザー向けです。

このセクションにおける学習事項：

- チャンネルおよびゾーン
- 「マイチャンネル」内の表示のためのチャンネルおよびゾーンの選択
- ラージチャンネルビューを開く
- ラージチャンネルビュー内でのリアルタイムグラフの表示および作業
- ゾーンを作成
- チャンネルのゾーン内への整理
- ゾーンを編集
- ゾーンを無効化
- チャンネル情報の表示または非表示

viewLinc 内でのチャンネルの取り扱いについて学習を始めます。

チャンネルについて

チャンネルとは何ですか？

インストールされたヴァイスラ データ ロガーによって、ロガーが温度、相対湿度、電圧および/あるいは電流の測定用の最大5つのチャンネルを所有しています(1つのチャンネルが各測定のパラメータに使用されます)。

注意： 300 シリーズ変換器は出力の数がチャンネルとして表示されます。


各チャンネルは、測定中であるデータのタイプを表示しています。viewLinc を使用して、そのネットワークに接続されているあらゆるデータ ロガー チャンネルを監視することができます。

最初に viewLinc にログインされると、チャンネル ウィンドウが表示されます。このウィンドウで表示される各項目：

- 監視用に利用可能なゾーン
- 選択済みゾーン内の利用可能なデータロガー チャンネル
- アクティブな監視チャンネルおよび実際のチャンネル データ
- しきい値インジケータ
- 状況に応じたヘルプ

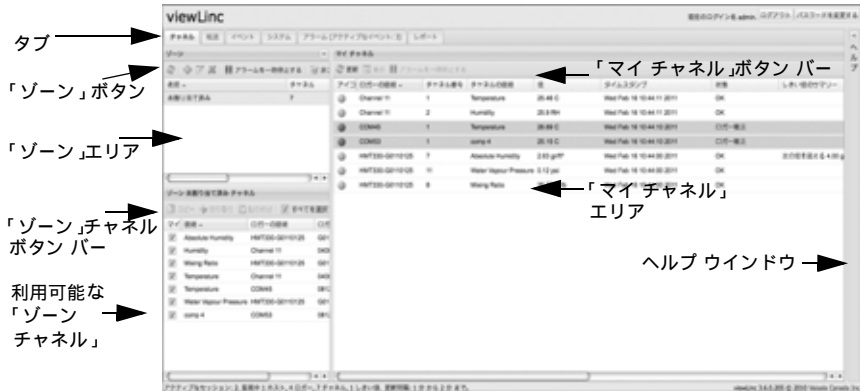
「マイ チャンネル」はどこにあるのですか？

「マイ チャンネル」エリア内に何もチャンネルが見つからない場合、以下の原因が考えられます：

- 選択済みのゾーンまたはチャンネルが存在していない。「ゾーン」エリア内で、少なくとも1つのチャンネルまたはゾーンがその側のチェックボックスで選択済みであることを確実にしてから、「マイ チャンネル」エリア内の 【更新】をクリックしてください。
- ご使用のロガーが適切に接続されていない可能性があります。
- ヴァイスラ Veriteq ロガーを使用して、ロガーの検出機能を試行する場合 - 「ロガー検出」ページ 54 をご参照ください。

チャンネル画面を理解する

viewLinc 内の「チャンネル」画面には多くの重要な機能が含まれています：



アイテム	詳細
タブ	メイン viewLinc タブに含まれる項目：チャンネル、転送、イベント、システム、アラーム、レポート。
「ゾーン」ボタン	[更新]、[アラームの一時停止]、などを含んでいます。
「ゾーン」エリア	ゾーンの構成が行われる場所です。各ゾーンを使用して viewLinc に接続されているチャンネルを整理します。
利用可能な「ゾーン」チャンネル	選択済みゾーン内で利用可能なデータロガーチャンネルの一覧。
「マイチャンネル」エリア	チャンネル構成の詳細、現在のデータ読み取り値、直近のタイムスタンプおよびしきい値アラーム設定情報が含まれています。

表 2: 「チャンネル」画面の重要な要素

「マイ チャンネル」は、ご使用の各ロガーおよび各チャンネルの一般的情報を表示しています。ほとんどのカラムはすぐご理解いただけると思いますが、viewLinc の理解を深めるためのいくつかの定義項目を説明します。すべてのオプションを表示するには、「チャンネルカラムの非表示および表示」、ページ 31 をご参照ください。

カラム	表示項目
ゾーン	チャンネルが整理されているゾーンです。
ロガーの説明	ロガーの説明 ([システム] タブから編集可能)。
チャンネル番号	対象ロガーのチャンネル番号 (各ロガーは 1 つ以上のチャンネルを保有しており、これらを 1、2 というようにラベル付けています)。
チャンネルの説明	チャンネルの説明 ([システム] タブから編集可能)。
値	チャンネルの値、例：摂氏表示での温度。
タイムスタンプ	直近のチャンネル読み取りが実行された時刻
状態	現在アクティブなアラームが存在しない時、[OK] が現れます。1 つのしきい値アラーム条件またはあらゆるそのほかのアラームが検出されている場合はそれを表示します。
しきい値のサマリー	しきい値状態のサマリー、アクティブな場合
アラーム	このチャンネルまたはロガーが現在アラームを発生させているのかどうかを表示します (アラームしきい値に到達している状態)。


表 3: 「マイ チャンネル」内の各カラムの情報

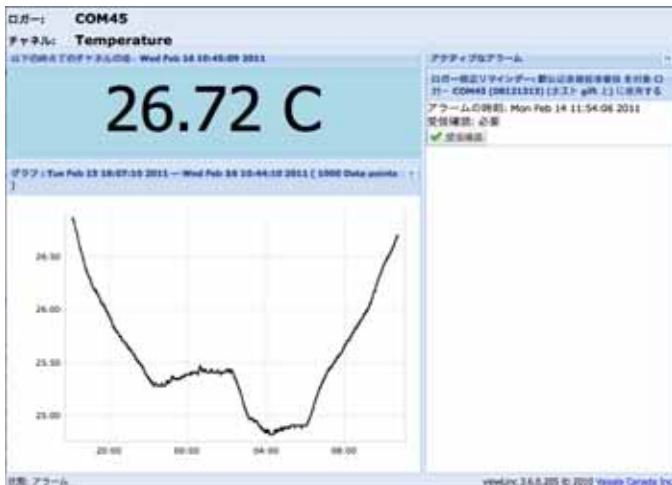
ラージチャンネルビューを開く

このウィンドウには、このチャンネルの直近のデータ読み取り値、あらゆる関連したしきい値設定、最近の履歴データのグラフィカル表示、およびアクティブなアラームを表示するためのエリアが含まれています。

注意： 単一のウィンドウ内で1つの特定のチャンネルを表示するか、または複数のチャンネルウィンドウを開くことが可能です。Internet Explorer をご使用の場合には、新しいウィンドウまたはタブ内で新しいリンクを開くように設定されていることを確実にしてください。[ツール] | [インターネット オプション] と移動してから、[全般] タブ上のタブ セクションで、[設定] をクリックして、「他のプログラムのリンクを開く方法」で [現在のウィンドウの新しいタブ] を選択します。

ラージチャンネルビューを開く方法：

- 1 「マイチャンネル」エリア内の [チャンネル] タブから、表示したいチャンネルを選択してください。
- 2  [表示] または選択済みのチャンネルのラインをダブルクリックします。
選択済みのチャンネルについての情報を含んでいる新しいサイズ変更可能なウィンドウが現れます。



- 3 複数のラージチャンネルビューを表示するにはステップ 1 および 2 を繰り返します。


ラージ チャネル ビュー を閉じるには、そのウィンドウの上部右隅にある [閉じる] ボックスをクリックします。

アラームを受信確認するには、「アラームの受信確認」、ページ 50 をご参照ください。

各リアルタイムのグラフ

viewLinc では、いつでもライブ データをグラフィカルに表示可能です。各グラフは最後の 300 または 1000 のデータ ポイント (ロガーに設定されたサンプル取得間隔およびご使用のインターネット ブラウザーに依存します)、および対応する期間のしきい値を表示しています。

1 つのグラフとしてライブ データを表示する方法 :

- 1 [チャネル] タブから、「マイ チャネル」エリア内で、表示したい 1 つのチャネルを選択してください。
- 2  [表示] をクリックします (またはその選択済みのチャネルのラインをダブルクリック)。これでそのラージ チャネル ビューが開かれます。

1 つの画面内で、直近の履歴傾向を表示することができ、より詳細な読み取り値を特定のポイント上でマウス ポインターをポイントすることで表示させます。

ラージチャンネルビューでのグラフの読み取り

1つのチャンネルを開いている場合、そのロガー読み取りの数値表示およびグラフィカル表示の両方の読み取りが可能です。以下はこのグラフ描画エリア内の主要な要素の説明です：

アイテム	説明
タイトルバー	アクティブなロガーの名前およびデータ読み取りのタイプ(湿度、温度、電圧または電流)を表示します。
ヘッダーバー	直近の読み取りの日付および時刻を表示します、ここでのタイムゾーンはこのブラウザが実行されているPCのタイムゾーン設定に依存します。
数値表示エリア	ユーザーにより定義済みの単位で、直近のデータ値を表示します(変更するには「温度測定単位の優先項目の選択」、ページ70ページをご参照ください)。
グラフエリア	データ履歴のグラフィカル表示がここに表示されます。
左側Y-軸	このグラフ内で表示されるデータのスケールを表示します。
X-軸 時間のスケール	レポート時間フレームを表示します(Internet Explorer 6.0 をご使用の場合には、最後の300データポイントのみが表示されます、すべてのその他のブラウザは最後の1000ポイントを表示します)。
チャンネルのライン	1つのラインにより履歴測定読み取り値のトレンドを表示します。特定のポイント上にマウスポインターをポイントして、X-軸およびY-軸の数値を表示することができます。
しきい値ライン	履歴しきい値を表示する色付きのラインにより表示されます(しきい値設定に基づきます)。マウスを移動しながら、特定のX-軸およびY-軸の数値を表示するために特定のポイント上でマウスポインターをポイントさせます。

表 4: ラージチャンネルビューの各要素

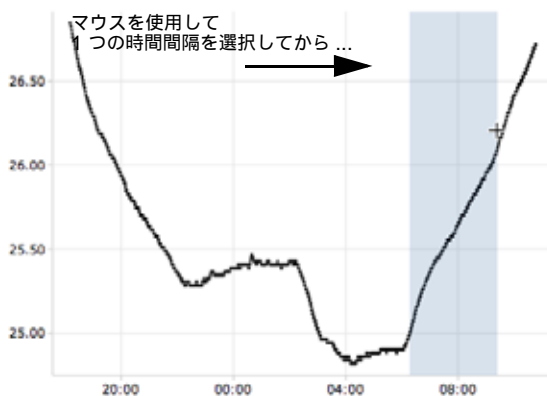
アイテム	説明
アクティブなアラーム エリア	アクティブなアラームの詳細の表示：しきい値とその超過した量、アラーム日付および時刻、該当するアラームの受信確認状態、およびその確認したユーザー。ユーザーがアラームを受信確認することができます。
状態バー	チャンネル監視状態を示します (OK またはアラーム状態)。

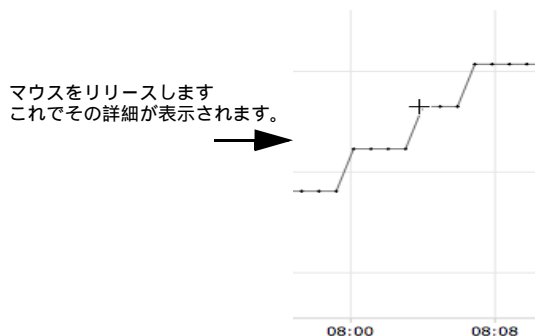
表 4: ラージチャンネルビューの各要素

ラージチャンネルビュー内でのグラフ 詳細の表示

ラージチャンネルビューが開かれていると、特定の時間間隔での拡大も可能です。

そのグラフ上のいずれかの場所をクリックして、カーソルを右側にドラッグして拡大したい時間間隔を反転表示させて、リリースします。この拡大済みエリア表示は次回のライブ更新まで表示されます。直ちにフルビューに復帰するには、このグラフ上の任意の場所をダブルクリックしてください (またエリアを選択し、左にカーソルをドラッグしてから、リリースしても復帰します)。






ラージチャンネルビューからのアラームの受信確認

ラージチャンネルビューウィンドウから、アラームを受信確認できます。

ラージチャンネルビューからのアラームの受信確認の方法：

- 1 ラージチャンネルビューの「アクティブなアラーム」パネルから、【受信確認】をクリックします。
- 2 現れた【アラームを受信確認する】ダイアログボックス内に、現在のアラーム状況の修正のために実行された操作を説明する情報を入力するか、または一般的なコメントを入力するかしてください。
- 3 【受信確認】をクリックしてください。

チャンネルのゾーン内への整理

ご使用の viewLinc 画面を整理して、重要な各チャンネルの監視に注力するために、ご使用の各チャンネルを関連した各ゾーン内に整理することが可能です。

デフォルトでは、1つのゾーンが作成され、「未割り当て済み」となります。すべての利用可能なチャンネルおよび最近切断されたチャンネルは、構成が行われるまでこのゾーン内に含まれたままとなります。

ゾーンの作成

新しいゾーンの作成方法：

- 1 「ゾーン」エリア内の [チャンネル] タブから、**+** [新しいゾーンの作成] をクリックします。
- 2 [ゾーン名] ダイアログ ボックス内に、このゾーンの名前を入力します。



- 3 **[OK]** をクリックします。この「ゾーン」エリア内に新しいゾーンが「未割り当て済み」の下に現れます。



ゾーンの編集

ゾーンの編集方法 (そのゾーン名のみ):

- 1 この「ゾーン」エリア内の [チャンネル] タブから、編集したいゾーンを反転表示させてください。
- 2 **[編集]** をクリックします。
- 3 [ゾーン名] ダイアログ ボックス内で変更を行います。
- 4 **[OK]** をクリックします。


各ゾーンの編集は、そのゾーン名を編集するのみだけです、これはその内部の割り当て済みの各チャンネルを変更するものではありません。ゾーンへのおよびゾーンからのチャンネルの移動方法については、「ゾーンへのチャンネルの割り当て」ページ 29 をご参照ください。

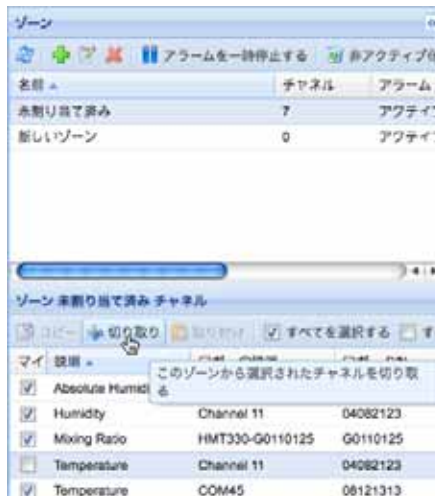
ゾーンへのチャンネルの割り当て

チャンネルをゾーンへ割り当てる方法：


- 1 各チャンネルをゾーン内に移動する前に、各チャンネルは viewLinc 管理者によりセットアップされている必要があります。ご使用のヴァイサラ Veriteq ロガーまたは 300 シリーズ変換機上での各ロガーチャンネルの有効化および無効化についての詳細は、それぞれの『ユーザーガイド』をご参照ください。
- 2 [チャンネル] タブ上で「ゾーン」エリアに、チャンネルを割り当てるためのゾーンが作成してあることを確実にしてください。各チャンネルを割り当てるためには、少なくとも 1 つのゾーンが作成済みである必要があります (デフォルトで作成された「未割り当て済み」のゾーンに追加して)。
- 3 「ゾーン」エリア内で、再割り当てしたいチャンネルが含まれるゾーンを反転表示させます (この場合、「未割り当て済み」のゾーン)。
- 4 ゾーン-「未割り当て済み」エリア (「ゾーン」エリア下部) 内で、再割り当てしたいチャンネルを反転表示させます。

注意： 一度に複数のチャンネルを選択するには、各チャンネルの選択時に **[Ctrl]** キーを押したままにします。一覧内のチャンネルのグループを選択するには、**[Shift]** キーを押しながらその最初のチャンネルと最後のチャンネルを選択します。


- 5  [切り取り] をクリックします。



- 6 「ゾーン」エリア内で、チャンネルを再割り当てしたいゾーンの名前を反転表示させます (この場合は、「新しいゾーン」となります)。

- 7 そのゾーンエリア内で、 [貼付け] をクリックします。このチャンネルがこれを貼り付けたゾーン内に現れます。使用する




チャンネルの移動先ゾーンを選択、あるいは  [更新] をクリックする必要がある場合があります。

ゾーンの非アクティブ化

ゾーンを非アクティブ化する場合、そのゾーンに含まれるチャンネルのうちその他のゾーンに含まれていないものは、デフォルトのゾーン、「未割り当て済み」に戻されます。

ゾーンの非アクティブ化の方法：

- 1 [チャンネル] タブ上の「ゾーン」内から、非アクティブ化したいゾーンを選択してください。「未割り当て済み」のゾーンは非アクティブ化できないということにご留意ください。
- 2  [選択したゾーンを非アクティブ化する] をクリックします。
[ゾーンを非アクティブ化する] ダイアログボックスが現れます。



- 3 [はい] をクリックします。このゾーンが非アクティブ化され、その (各) チャンネルは「未割り当て済み」ゾーン内に再び現れます。

各ゾーン間でチャンネルを移動させるには、「ゾーンへのチャンネルの割り当て」、ページ 29 をご参照ください。

チャンネル カラムの整理

「マイ チャンネル」内での表示順序の再並び替え方法：

- 1 [チャンネル] タブ上の「マイチャンネル」エリア内で、黒色の [オプション] ボタンが現れるまでカラムヘッダー上にてマウスポインターをポイントさせます。
- 2 このボタンをクリックして、[昇順] または [降順] を選択するか、または対象カラムヘッダーをクリックすることですべての行を並び替えできます。逆の順で一覧の再並び替えするにはもう一度クリックしてください。

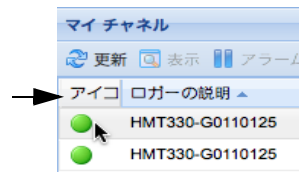
チャンネル カラムの非表示および表示

「マイ チャンネル」内でのカラム非表示の方法：

- 1 [チャンネル] タブ上の「マイチャンネル」エリア内から、いずれかのカラムヘッダーの上にてマウスポインターをポイントさせてから、黒色の [オプション] ボタンをクリックします。



- 2 [カラム] を選択してから、表示したいカラムを選択するか、または非表示にしたいカラムの選択を解除します。例：アラーム状態を表示する色付きアイコンを持ったカラムを表示するには、[アイコン] をクリックします。



- 3 その一覧の外側をクリックするか、または [Esc] を押してそのオプションの一覧を非表示にします。

ここではチャネルがどのように機能するかを見てきました - これからはどのように アラームの構成、トリガー、および受信確認 を実行するのかを見ていきます。

第章：アラーム

アラームおよびアラーム受信確認は、ヴァイサラ Veriteq 環境モニタリングシステムでの成功へのカギの 1 つです。

この章における学習事項：

- viewLinc 内でのアラームのタイプの理解
- アラーム テンプレートの作成
- しきい値および通信アラームの設定
- アラームの非アクティブ化および再アクティブ化
- アラームの受信確認
- アラームの一時停止

アラーム レポートの生成方法について学習するには、以下をご参照ください第章：レポート。

アラームの取り扱いについての学習を始めます。

アラームについて

「フルコントロール」、「アラームを構成する」、および「カスタム化しきい値を構成する」権限を持つユーザーのアクセスのみで、アラーム制限値を設定可能であり、諸条件がこれらの制限値を超過した時、アラームがトリガーされ、該当条件の主要な職員に通知されます。「アラームを受信確認する」のアクセス許可またはそれより上位のアクセス許可を持つ職員が、viewLinc でアラームの受信確認を実行します。すべての処理は「イベントログ」および「履歴データベース」内に記録されています。

viewLinc 内のいくつかのアラームの種類：しきい値アラーム、通信アラーム、イベント ログ検証アラーム、およびロガー サンプルングアラーム。検証可能なロガーを使用されている場合には、ロガー検証アラームおよび校正アラームをも受信することとなります。

viewLinc を使用して、[システム] | [ロガー] タブから構成することで、しきい値、通信およびロガー アラーム用に発行されるアラーム情報のカスタム化が可能です。

しきい値アラーム

しきい値アラームは、諸条件（温度および相対湿度など）が許容制限値を逸脱した時にユーザーに通知するものです。

デフォルトではしきい値アラームは有効化されていません。特定のしきい値超過した場合にしきい値アラームをトリガーするには、割り当て済みのアクセス許可を持つユーザーがこれらを構成する必要があります。

通信アラーム

通信アラームは、ホスト（ロガー ホストまたは viewLinc サーバー）と該当するデータ ロガー間での通信が停止した時にユーザーに通知するものです。これは viewLinc サーバーが該当するロガーと通信できないか、または該当するデータ ロガーの ホストへの接続が切断されていることが考えられます。通信アラームは、viewLinc の監視およびアラーム実行を中断する問題がある場合に警告を発するシステム健全テストとしても機能しています。

イベント ログ検証アラーム

「イベント ログ検証」アラームは、viewLinc イベント ログ履歴データが変更されているか、または改ざんされているかしておりもはや検証可能ではないことを示しています。

ロガー構成アラーム

「構成アラーム」を受信した場合、これは、ご使用のデータロガーがデータ履歴の記録を停止しているか、または間違っ構成されたことを示しています。これは、メモリフルで停止の設定になっている、設定した記録開始時刻になっていない、または該当のロガーに内部エラーがある可能性があります。このアラームは、Spectrum または vLog ソフトウェアを使用して該当のロガー内であるチャンネルが無効化された場合にトリガーされることもあります。この問題の修正には、vLog ソフトウェアを使用して該当するヴァイサラ Veriteq データロガー設定を検証または変更してください。この問題が解決しない場合には、担当のヴァイサラ技術担当者に連絡してください。

ロガー検証アラーム

VL- タイプのデータ ロガーをご使用の場合は、該当ロガー内の検証メモリが破損したか、または変更されてしまった場合に「検証アラーム」を受信するようになります。担当のヴァイサラ技術サポート担当者にご連絡ください。

ロガー校正アラーム

VL- タイプのデータ ロガーをご使用の場合は、ご使用のデータ ロガーが校正時期である場合に断続的な通知を送信します。受信する通知の時間間隔：校正日に先立ち 3 か月および 1 か月前、それから該当のデータロガーのスケジュールされた校正日に再度。このアラームは、該当のロガーが再校正されるまでアクティブに保持されるようになります。

アラームがトリガーされると何が起きるのですか？

アラームがトリガーされた場合の発生事項：

- ポップアップが現れて、該当条件の説明、アラームメッセージを表示します。ご使用のブラウザでポップアップがブロックされている場合には、エラーメッセージが現れて、viewLinc 用のポップアップを有効化するようとのダイアログが表示されます。
- 電子メールを送信可能です。構成すれば、しきい値制限値を超過した、通信が中断された、またはイベントログまたはロガー アラーム条件が存在している場合に、該当する（複数の）指定済みの電子メール アドレスに自動的に電子メールを送信することができます。アラーム電子メールは、アラーム プロパティの設定方法に従って繰り返し送信することが可能です。

- アプリケーションを起動するか、外部デバイスをオンにすることが可能です。構成すれば、外部デバイス(ライトまたはブザーなど)またはコンピューターアプリケーション(特定の電話番号へのメッセージ送信または電話発信を可能にするパッチファイルなど)がアラーム条件の発生したときにトリガー可能です。
- 上記のすべて。ご自身でツリー アラーム階層を設定することも可能です、これは指定された時間フレーム以内に最初の通知が受信確認されなかった場合に別の個人に通知を行う方法です。

アラームは viewLinc 内で受信確認されるべきであり、その状況はできるだけ速やかに処置される必要があります。すべての処理は「イベント ログ」および「履歴データベース」内に記録されており、「イベント ログ」または「アラーム レポート」内で表示させることができます。

アラーム テンプレートの作成

viewLinc は、5 つのデフォルトのアラーム テンプレート提供しており、それぞれがしきい値アラーム、通信アラーム、および 3 つのタイプのロガー アラーム (校正、検証および構成) となっています。必要に応じてこれらのテンプレートのパラメータを変更するか、また独自のものを作成することが可能です。

複数のロガー チャンネル用に同様なアラーム設定を定義する場合に時間を節約する優れた方法です (一般的なパラメータに適用可能、通知およびコメントはもちろん、- 色コード、アラームメッセージ、遅延、受信確認の要不要の設定も可能です)。

また 1 つの再利用可能なしきい値条件を作成して、指定するアラーム テンプレートに割り当てることも可能です (「しきい値条件テンプレートの作成の方法:」 ページ 41 しきい値条件テンプレートの作成の方法: を参照)。

アラーム テンプレートの作成方法:

- 1 [アラーム] | [アラーム テンプレート] から、**+** [アラームテンプレートを追加する] をクリックします。



- 2 デフォルトで、このアラーム テンプレート名は、「新しいアラーム テンプレート」です。このタイトル内をクリックしてより詳しい特定タイトルを入力します。

- 3 [パラメータ全般] タブ上の定義項目:
- a 色コード。アラーム色コードを選択します - 以下のいずれかとなります青色、黄色、オレンジ色、または赤色。この色が、[アラーム] タブ上でのアラーム用に色インジケータとして使用され、アクティブ化された場合、「マイチャネル」内の行への背景色として使用されます。これはリアルタイムグラフ内のしきい値ライン用の色としても使用されます。この色を重要度を表示するために使用するようになります。深刻さが低いアラームの青色から開始して、最も深刻なアラームは赤色へとエスカレートさせることができます。
 - b アラームメッセージ。アラーム電子メール通知を設定したい場合 ([通知] タブ上での設定)、このアラームメッセージ内に現したいメッセージを入力してください。
 - c アラームをアクティブ化する前に遅延させる (HH:MM)。希望される場合は、この条件が存在してこのアラームをトリガーされるまでに、遅延させたい間隔時間を、時間および/または分にて指定してください。
 - d 受信確認が必要です。このオプションを選択するのは、アラームの受信確認を個人がする必要がある場合です。このオプションを選択する場合は、そのアラームが受信確認されるまで [アラーム] タブ上で保持されるようになります。
- 4 このアラームがポップアップ ウィンドウを開くようにしたい場合:
- a [通知] タブを選択。
 - b [追加] をクリックしてから、[ポップアップ通知を追加する] を選択します。



- c [ポップアップする前に遅延させる] 内で、ポップアップ フィールドの前に、そのポップアップを表示する前の遅延時間を、時間および/または分 (HH:MM) で指定します。この遅延時間は [パラメータ全般] タブでの遅延が終了してから開始されます。

注意: この機能は慎重にご使用になることを推奨して
います。同時に多数のポップアップがトリガー
された場合には、ご使用のブラウザ動作が中
止され、修正のためにご使用のブラウザを再
起動することが必要となる場合もあります。

- 5 アラームがトリガーした時に 電子メール通知を送信する方法:
 - a [通知] タブを選択。
 - b **+** [追加] をクリックしてから、[電子メール通知を追加する] を選択します。

- c [最初の通知を送信する前に遅延させる] 内で、最初の通知フィールドを送信する前に、その最初の電子メールを送信する前の遅延させたい時間を、時間および/または分 (HH:MM) で指定します。

注意: [最初の通知を送信する前に遅延させる] を設定している場合は、組み合わせの時間遅延がご使用のアラーム通知に割り込まないことを確実にしてください。

- d 通知を受信する 1 つまたは複数の特定電子メール ([システム] | [ユーザー] 内で事前構成済み でないもの) を入力するには、その電子メールアドレスを [電子メールを以下へ送信する] テキストボックス内に入力してください。複数の電子メールアドレスはコンマで区切ってください。

注意: を [電子メールを以下へ送信する] で指定された電子メールアドレスは、特定ユーザー用の電子メールアドレスに対して確認されません。[電子メールの送信先] 内に電子メールアドレスを入力した場合に、その同一の電子メールアドレスが 1 つの特定のコンタクトスケジュールで [システム] | [ユーザー] 内に指定されている場合には、viewLinc はそのスケジュールを無視してその通知を発送します。して対象のリストの順番を再整理します。[OK] をクリックします。



- e [ユーザーリスト]内のテキストボックスをクリックすると、アラームを受信確認できる権限のユーザーのリストが表示されます。[システム] | [ユーザー]内で電子メールを指定したユーザーのみが現れます（「コンタクト スケジュールの作成」、ページ 66 をご参照ください。）ユーザーをドラッグして [選択したユーザー] カラムに移動させると、通知されません。必要な場合は [矢印] ボタンを使用して対象のリストの順番を再整理します。[OK] をクリックします。

注意: 【電子メールの送信先】で指定された電子メールアドレスは、特定ユーザー用の電子メールアドレスに対して確認されません。【電子メールの送信先】内に1つの電子メールアドレスを入力した場合に、その同一の電子メールアドレスが1つの特定のコンタクト スケジュールで [システム] | [ユーザー] 内に指定されている場合には、viewLinc はそのスケジュールを無視してその通知を送信します。

- f 【電子メール通知を繰り返す】ドロップダウンメニュー内で、対象の条件がまだ存在している間に電子メールを再送信する頻度の適切な時間間隔を入力してください。再送信される電子メールの最大の試行回数を指定することも可能です（限度を設定したくない場合には、ゼロ、(0) を入力してください）。
- g アラームが受信確認されたときか、または対象の条件が解消した場合にも電子メールを送信するには、チェックボックスで選択してください。
- h 異なるアラーム条件で、異なる受信者に対してのアラーム通知を発行したい場合は、異なる遅延時間間隔を持つ複数の電子メール通知を作成してください。例えば、最初に受信者に、1分程の短い遅延時間間隔で通知を作成し、20分間の遅延時間間隔で別のユーザー用へ別の電子メール通知を作成するなどです。最初の通知が20分以内に受信確認されない場合には、この第二の通知が自動的に送信されることとなります。

注意： アラーム通知電子メールで送信可能な他の情報があります。詳細については、「アラーム電子メール テンプレートの編集」、ページ 63 をご参照ください。

- 6 対象の viewLinc サーバー コンピューター上にて 条件が存在している場合にコマンドを実行することも可能です (外部デバイス類をトリガーすることが可能です)。コマンドの構成の方法:

- a [通知] タブを選択。
- b **+** [追加] をクリックしてから、[コマンド通知を追加する] を選択します。
- c そのコマンドに先立ち遅延させる場合は、遅延時間間隔を時間および/または分間 (HH:MM) にて入力してください。

注意： [アラーム オプションのアクティブ化前に遅延] を設定している場合は、組み合わせの時間遅延がご使用のアラーム通知に割り込まないことを確実にしてください。


- d [コマンドの実行] のテキスト フィールド内で、適切なボックス内に [DOS コマンド] を入力してください。アラームがアクティブ化された場合にコマンドを実行する、アラームがアクティブ化された場合にコマンドを実行する、アラームがアクティブ化された場合にコマンドを実行する、またはアラームがオフにされた場合にコマンドを実行する、異なったコマンドの実行が可能となります。




例:

```
C:\Program Files\Veriteq
Instruments\viewLinc\python\python" -m
viewLinc.scripts.SwitchBbRelay < COM ポートの
番号 (リレー デバイスが接続されている)> < 補足: FAQ
& トラブルシューティング > 内のスクリプト文書内で指定
されているオプションを参照ください。
```

上記で示された例は、デジタル リレー I/O デバイスに特定の Python スクリプトを示しています。異なるコマンドまたはスクリプトには異なるパラメータが適用されます。

- 7 電子メールにコメントを挿入するには、事前構成済みコメントのリストから選択することが可能です (「アラーム電子メールテンプレートの編集」、ページ 63 をご参照ください)。または 1 つの新しいコメントを入力が可能です。どのようにコメントが電子メール内に現れるかは電子メール テンプレート内で定義されています。
 - a [コメント] タブを選択。
 - b その通知の目的に適切である 事前構成済みコメントを選択するか、または新しいコメントを入力してください。
- 8 アラームの設定が完了したなら、 [保存] をクリックします。これでこのアラームテンプレートは、複数のロガーまたはチャネルに対して適用することが可能です (「しきい値アラームの設定」、ページ 42 または「通信アラームの設定」、ページ 46 通信アラームの設定またはしきい値アラームの設定 を参照のこと)。ロガーに適用する際に、部分的な変更を行いたい場合は、「しきい値アラームの編集」、ページ 44、「通信アラームの編集」、ページ 47、または「ロガー アラームの編集」、ページ 49 しきい値アラームの編集または通信アラームの編集を参照してください。

しきい値条件テンプレートの作成の方法:


- 1 [アラーム] | [しきい値テンプレート] から、 [しきい値テンプレートを追加する] をクリックしてください。



- 2 デフォルトで、このテンプレートは「新しいしきい値テンプレート」と名前が付けられています。そのタイトル内のいずれか場所をダブルクリックしてこれを変更します。

新しいしきい値テンプレート

- 3 しきい値条件の設定を行います。
- 4 既存のアラーム テンプレートを適用したい場合 (アラームがどのように表示され、しきい値に到達したときに誰が通知されるのかを定義されている)、[アラーム テンプレートを使用する] を選択してください (アラーム テンプレートの作成 36 ページ を参照してください)。

- 5 このテンプレート用にカスタム化設定を定義したい場合は、その [パラメータ全般] 内、[通知]、および [コメント] 内のフィールドを完成させてください。
- 6 ご利用のしきい値テンプレートの作成を終了されたなら、 [保存] をクリックしてください。

しきい値アラーム

正しいアクセス許可を付与されているユーザーが、アラームをトリガーさせるロガー チャンネルしきい値を設定してください。例：

- 1 分間を超えて 23.00 より高い場合
- 15 分間を超えて RH 37.76 より低い場合。

テンプレート (事前に構成済みの場合) を使用して、またはカスタムでアラームの設定が可能です。

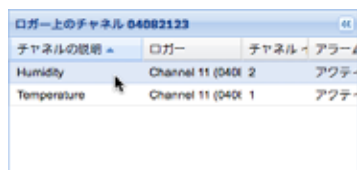
しきい値アラームの設定

いくつかのしきい値アラームの構成が可能です、例えば、軽度のアラーム用に黄色アラーム、重度のアラーム用に赤色アラーム。次のような使用方法があります。最初に (しきい値を 1 分間超過する

条件で) 黄色アラームのトリガーし、電子メールを誰かに送信する設定にします。赤色アラームをそのアラーム条件をより長い時間に設定し (しきい値を 15 分間超過する条件で)、ラボ マネージャ、または通知を受けてアクションをするスタッフのメールリストに電子メールを送信する設定にします。

しきい値アラームの設定の方法：

- 1 システム | [ロガー] から、ロガー上のチャンネル 内にて、しきい値アラームを設定したい対象の チャンネルを選択してください。



注意： 一度に複数のチャンネルを選択するには、チャンネルの選択時に [Ctrl] キーを押したままにします。一覧内のチャンネルのグループを選択するには、[Shift] キーを押しながらその最初のチャンネルと最後のチャンネルを選択します。

- 2 [しきい値] を選択して、**+** [Xのしきい値を作成する] をクリックしてください (ここで X とはそのチャンネルで測定される単位で、C、RH または mA などです)。



[しきい値を編集する] の画面が現れます。




- 3 既存のしきい値テンプレートを使用して (推奨しています) しきい値アラームを設定するには、[使用するしきい値テンプレート:] を選択してから、そのドロップダウンリストから目的のテンプレート選択してください。
- 4 カスタム化しきい値を設定するには、[カスタムアラーム設定を使用する] をクリックして、そのしきい値条件を定義してください。例えば、その温度が 21 C を超過したときにトリガーされる 温度アラームなどです。
- 5 既存のアラーム テンプレート設定するには、[アラームテンプレートを使用する] を選択してから、そのドロップダウン リストから目的のテンプレート選択してください。
- 6 カスタム化アラーム設定をセットアップするには、[カスタムアラームを使用する] を選択します。

- 7 その [パラメーター一般]、[通知]、および [コメント] タブ上で以下に「アラーム テンプレートの作成」、ページ 36 記載されているステップ 3 から 8 までに従いご使用のアラーム設定を設定してください。

しきい値アラームの編集

しきい値アラームの編集の方法：

- 1 【システム】|【ロガー】から、しきい値を編集したい対象のチャンネルを選択してから、編集するそのしきい値を選択します。
- 2 【しきい値】メニュー上で、【しきい値を編集する】をクリックします。【しきい値の編集】の画面が表示されます。




- 3 希望するように【しきい値設定】を編集してください。
- 4 【保存】をクリックします。

しきい値アラームの無効化

すべての設定情報を削除することなくアラームを一時的に無効化することが可能です（例えば、1つの場所から別の場所へロガーを移動したい場合など）。

しきい値アラームの一時的な無効化の方法：


- 1 【システム】|【ロガー】内で、しきい値を無効化したい対象のチャンネルの行を強調表示させます。
- 2 【しきい値】メニュー上で、【しきい値を編集する】を選択します。
- 3 【しきい値の編集】画面内で、【しきい値アラームの有効化】を選択解除します。
- 4 【保存】をクリックします。

注意： アラームを一時停止させることも可能です - 詳細については「アラームの一時停止」、ページ 51



しきい値アラームの非アクティブ化および再アクティブ化

既に必要とされないために、1つのロガーのチャンネルしきい値アラームを非アクティブ化したい場合を考えます。1つの非アクティブ化済みのしきい値は「非表示」となりますが、再アクティブ化することが可能です。

しきい値アラームの非アクティブ化の方法:

- 1 [システム] | [ロガー] 内で、しきい値を無効化したい対象のチャンネルの行を強調表示させます。
- 2 [しきい値] メニュー上で、 [しきい値を非アクティブ化する] を選択します。

しきい値アラームの再アクティブ化の方法:

- 1  [非アクティブ化されたアイテムを表示する] をクリックします。
- 2 表示されているしきい値のリストから、1つを強調表示させ、 [しきい値の再アクティブ化] を選択します。

注意: アラームを一時停止させることも可能です - 詳細については「アラームの一時停止」ページ 51 をご覧ください。

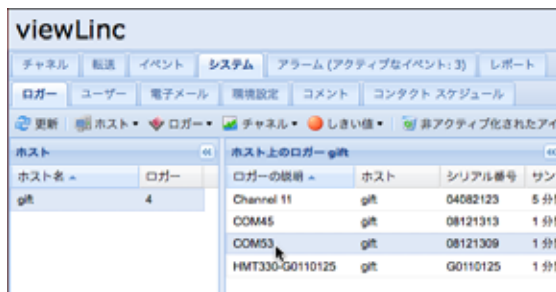
通信アラーム

ロガー間および viewLinc サーバー間での通信は、諸条件のリアルタイム監視に不可欠なものです。このため、viewLinc はあらゆる地点における通信の遮断をユーザーに通知するための通信アラームを搭載しています。デフォルトで、ホストおよびロガーには 1 つの通信アラームが事前構成済みとなっています。このデフォルトのアラームを編集するか、または追加の通信アラームをセットアップするかのいずれかが可能です。

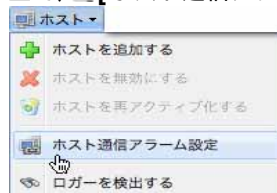
通信アラームの設定

通信アラームの設定の方法：

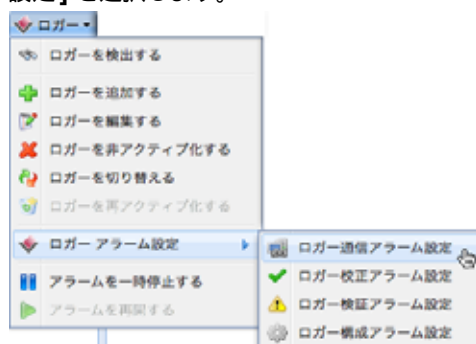
- 1 [システム] | [ロガー] から、その通信アラームを設定したい対象のホストまたはロガーを選択します。



- 2 [ロガー ホスト通信アラーム] を設定するには、[ホスト] メニュー上で、[ホスト通信アラーム設定] を選択してください。



- 3 [ロガー通信アラーム] を設定するには、[ロガー] メニュー上で、[ロガー アラーム設定] を選択してから、[ロガー通信アラーム設定] を選択します。



[通信アラーム設定] の画面が表示されます。



- 4 【アラームの有効化】を選択してください (アラームは有効化されるまでは「有効」ではありません)。
- 5 既存のアラーム テンプレートを使用して、1 つの通信アラームを設定するには、【アラーム テンプレートの使用】を選択してから、そのドロップダウン リストから目的のテンプレートを選択してください。
- 6 カスタム化アラーム設定を設定するには、【カスタム化アラームの使用】を選択します。
- 7 その【パラメータ全般】、【通知】、および【コメント】タブ上で「アラーム テンプレートの作成」、ページ 36 記載されているステップ 3 から 8 までに従いご使用のアラーム設定を設定してください。

通信アラームの編集

デフォルトで、ホストおよびロガーには 1 つの通信アラームが事前構成済みとなっています。これらのアラームは削除することができませんが、編集することは可能です。

通信アラームの編集の方法：

- 1 【システム】|【ロガー】から、編集したい通信アラームの対象であるホスト名またはロガー名を強調表示させます。
- 2 つの【ロガー ホスト通信アラーム】を編集するには、【ホスト】メニュー上で、【ホスト通信アラーム設定】を選択してください。

- 3 [ロガー通信アラーム] を編集するには、[ロガー] メニュー上で、[ロガー アラーム設定] を選択してから、[ロガー通信アラーム設定] を選択します。[通信アラーム設定] の画面が表示されます。




- 4 希望するように [アラーム設定] を編集してください。
- 5 [保存] をクリックします。

通信アラームの無効化

すべての設定情報を削除することなく通信アラームを一時的に無効化することが可能です。

アラームの一時的な無効化の方法:

- 1 [システム] | [ロガー] から、無効化したい通信アラームの対象であるホスト名またはロガー名を強調表示させます。
- 2 [ホスト] または [ロガー] メニュー上で、 [通信アラーム設定] を選択します。[通信アラームの設定] の画面が表示されます。



- 3 [アラームを有効にする] チェックボックスの選択を解除します。
- 4 [保存] をクリックします。

注意: アラームを一時停止させることも可能です - 詳細については「アラームの一時停止」ページ 51 をご参照ください。

ロガー アラーム

ご使用のロガーの継続的な機能性の確保が正確なリアルタイム監視に要求されています。これにより、viewLinc は、あらゆる地点においてロガーの機能が危害をこうむった場合にユーザーに通知するためにロガー校正、検証および構成のアラームを搭載しています。デフォルトで、ロガー用に事前構成済みの 3 つのロガーアラームが存在しています (ロガー通信アラームに追加して)。これらのアラームは削除することができませんが、編集することは可能です。

ロガー アラームの設定

ロガー アラームの設定の方法:

- 1 [システム] | [ロガー] から、そのロガー アラームを設定したい対象のロガーを選択します。
- 2 [ロガー] メニュー上で、[ロガー アラーム設定] を選択してから、設定したいロガー アラームのタイプを選択します。[アラームの設定] の画面が表示されます。
- 3 [アラームを有効にする] を選択してください (アラームは有効化されるまでは「有効」ではありません)。
- 4 既存のアラーム テンプレートを使用して、1 つのロガー アラームを設定するには、[アラームテンプレートを使用する] を選択してから、そのドロップダウン リストから目的のテンプレートを選択してください。
- 5 カスタム化アラーム設定を設定するには、[カスタムアラーム設定を使用する] を選択して、[パラメータ全般]、[通知]、および [コメント] タブを使用してカスタム化設定を定義してください (以下で記載されている「アラーム テンプレートの作成」、ページ 36 ステップ 3 から 8 までをご参照ください)。

ロガー アラームの編集

ロガー アラームの編集の方法:

- 1 [システム] | [ロガー] から、そのロガー アラームを編集したい対象のロガーを選択します。
- 2 [ロガー] メニュー上で、[ロガー アラーム設定] を選択してから、編集したいロガー アラームのタイプを選択します。
- 3 希望するように [アラームの設定] を編集してください。
- 4 [保存] をクリックします。

ロガー アラームの無効化

つのロガー アラームの無効化の方法：

- 1 [システム] | [ロガー] から、アラームを無効化したいロガーを選択してください。
- 2 [ロガー] メニュー上で、[ロガー アラーム設定] を選択してから、無効化したいロガー アラームのタイプを選択します。
- 3 [アラームを有効にする] のチェックボックスの選択を解除します。
- 4 [保存] をクリックします。

注意： アラームを一時停止させることも可能です - 詳細については「アラームの一時停止」、ページ 51「アラームの一時停止」、ページ 51 をご覧ください。

アラームの受信確認

すべてのユーザーはアラームを受信することが可能ですが、正しいアクセス許可を付与されたユーザーのみがアラームの受信確認が可能です。

アラームが受信確認を要求するように設定されている場合、アラームは受信確認する必要があります。アラームを受信確認するには、viewLinc にログインしている必要があります。


実行された操作およびあらゆるコメントなどの受信確認情報は、「イベント ログ」および「履歴データベース」内において追跡されています。詳細については、第章：イベントおよび 第章：レポートをご参照ください。

アラームはまた、受信確認を必要としないように構成させることも可能です。詳細は、「しきい値アラームの設定」、ページ 42、「通信アラームの設定」、ページ 46、および「ロガー アラームの設定」、ページ 49 をご参照ください。

アラームがトリガーされた時、[アラーム] タブに 1 つの新しい行が現れます。

このセクションは、[アクティブなアラーム] タブを使用したアラームの受信確認を取り扱っています。1 つの「ラージ チャネル ビュー」からアラームを受信確認することも可能です（「ラージ チャネル ビューからのアラームの受信確認」、ページ 27 をご参照ください）。

アラーム タブからのアラームの受信確認の方法：

- 1 [アラーム] | [アクティブなアラーム] から、対象のアクティブなアラームを選択してから、 [受信確認] をクリックします。


- 2 [アラームを受信確認する] のダイアログ ボックスが現れて実行された操作およびコメントの入力するよう確認してきます。

- 3 [受信確認] をクリックしてください。入力されたコメントおよび操作は「イベント ログ」内に追加され、[アラームの受信確認] ボックスが閉じられます。「マイ チャネル」が状態内でのこの変化と共に更新されることとなります。

アラームの一時停止

ロガーを移動させる必要のある場合や、また特定の予定された（または機知の）状況が設定されているしきい値を超過させる状況をもたらすような場合に、アラームを一時停止させたい場合も考えられます。アラームの一定期間の停止は、アラームの無効化よりも迅速に出来ます。24 時間を超えない範囲でアラームを一時停止させることが可能です。

ゾーン内のすべてのアラームを一時停止させる方法：

- ▶ [チャンネル] | [マイ チャネル] から、一時停止させたい対象のゾーンを選択してから、 [アラームを一時停止する] をクリックします。一時停止させる特定のロガーまたはチャンネルを選択することも可能です。

アラームを一時停止させる方法：

- 1 [システム] | [ロガー] から、アラームを一時停止させたい対象のロガーまたはチャンネルを選択します。
- 2 すべてのロガー アラームまたは 1 つの個別のチャンネル アラームを一時停止させるには、[ロガー] を選択します。
- 3 [アラームを一時停止する] のダイアログボックス内で、この一時停止の理由を入力して、アラームを一時停止させる時間を選択します。[OK] をクリックします。

「マイ チャネル」エリア内で、[アラーム] のカラムが変化して、アラームが一時停止される時間が表示されます。

第章：アラーム

ゾーン内の 1 つ以上のチャンネルのアラーム実行を再開させる方法:

- ▶ [チャンネル] | [マイ チャンネル] から、再開させる 1 つ以上のゾーン、ロガーまたはチャンネルを選択して、▶ [アラームを再開する] をクリックします。

アラームを再開させる方法:

- 1 [システム] | [ロガー] から、アラームを再開させたい対象のロガーまたはチャンネルを選択します。
- 2 すべてのロガー アラームまたは 1 つの個別のチャンネル アラームを再開させるには、[ロガー] または [チャンネル] を選択してから、▶ [アラームを再開する] を選択します。

第章 : システム設定

viewLinc 内にはいくつかの重要な管理画面が存在しており、すべての項目は [システム] タブの下にまとめられています。このセクションは、理解することが必要な以下の各管理タスクを取り扱っています:

- ロガーの検出
- ロガーの追加
- ロガーの切り替え
- ロガーの削除
- ロガーおよびチャネル プロパティの編集
- 電子メール設定の構成
- アラーム電子メール テンプレートの編集
- ユーザー アカウントおよびパスワードの作成、編集、または非アクティブ化
- ユーザーへのアラーム編集アクセス許可の供与
- ユーザーへの特定チャネル監視目的のアクセス許可の供与
- ロガーおよびチャネル説明表示の選択 (エイリアス)
- 温度測定単位の優先項目の選択
- セッション有効期限時間の設定
- 事前構成済みコメントの作成

イベント ログおよびレポートの生成での情報については、第章: イベント、および第章: レポートを参照してください。しきい値アラームの設定の情報については、第章: アラームを参照してください。「システム」内での「ロガー」および「チャネル」の操作について学習を始めます。

ロガー検出

「マイチャンネル」内に未表示の可能性のある最近接続済みのヴァイサラ Veriteq ロガーの自動での検出方法：

注意： 300 シリーズ変換機はこのロガー検出手順を使用しても viewLinc よって検出されません。viewLinc はこれらを自動的に検出します(または必要に応じてご使用の Digi Discovery ソフトウェアを使用することができます)。

- ▶ [システム] | [ロガー] から [ロガー] をクリックしてから、[ロガーを検出する] をクリックします。



注意： ご使用のネットワーク内でのヴァイサラ Veriteq ロガーおよび / または各コンポーネントの数に依存して、このプロセスは数分間かかる場合もあります

ロガーの追加

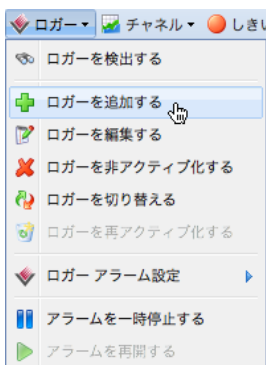
ご使用のシステムにロガーを追加したい場合：

- ロガーの検出に時間がかかりすぎる
- 300 シリーズ変換機ロガーを追加しようとしている
- 一度にたくさんのタイプのロガーを追加したい。

注意： 一度に複数のヴァイサラ Veriteq ロガーを追加するには、「ロガー検出」、ページ 54 をご参照ください。

ヴァイサラ Veriteq ロガーの追加方法：

- 1 [システム] | [ロガー] から [ロガー] をクリックしてから、[ロガーを追加する] をクリックします。

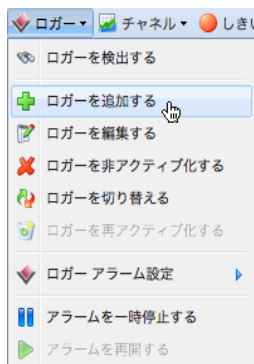


- 2 [ロガーを追加する] 画面内で、[デバイスクラス] ドロップダウンリストから Veriteq ロガーを選択します。
- 3 その COM ポート番号を入力します。
- 4 ヴァイサラ Veriteq ロガーおよび 300 シリーズ変換機ロガーの組み合わせを追加するには、[定義ファイルをアップロードする] を選択してからファイル名を入力するか、ブラウズします。いくつかのヴァイサラ Veriteq ロガーの追加するには、「ロガー検出」、ページ 54 ロガー検出をご参照ください。「定義ファイル」を作成するには、補足：FAQ & トラブルシューティング、ページ 93をご参照ください。

300 シリーズ変換機の追加方法：

注意： 追加しようとする変換機上でその他のユーザーが誰もログオンしていないことを確実にしてください。

- 1 [システム] | [ロガー] から [ロガー] をクリックしてから、[ロガーを追加する] をクリックします。



- 2 [ロガーを追加する] 画面内で、[デバイス クラス] ドロップダウンリストから 300 シリーズ変換機を選択します。
- 3 以下を入力します：
 - a スキャン後に切断する：対象デバイスに対する継続的な接続を維持するには、FALSE を選択します。
 - b 接続タイプ：この変換機が LAN または WLAN モジュールである場合、ネットワークを選択します。既存の Digi デバイスを使用している場合、[COM ポート] を選択してください。
 - c TCP ポート：デフォルトは 23 です (変更できません)
 - d IP アドレス：担当の管理者に問い合わせるか、または対象のロガー ボックスを確認します。
 - e サンプル レート：90 を選択してください (推奨していますが、より多くまたは少ないデータの記録を希望する場合はこのレートを変更できます)。
 - f 接続タイムアウト：継続的監視を確実にするために、変更しないでください。必要な場合は、担当のネットワーク管理者にご連絡ください。
- 4 いくつかの 300 シリーズ変換機またはヴァイサラ Veriteq ロガーおよび 300 シリーズ変換機ロガーの組み合わせを追加するには、[定義ファイルをアップロードする] を選択してからファイル名を入力するか、ブラウズしてください。[定義ファイル] を作成するには、補足：FAQ & トラブルシューティングにてページ 93 をご参照ください。

ロガーの切り替え

保守目的で データ ロガーを発送する必要がある場合 (再校正など)、継続的監視およびアラーム続行を確保するために別のロガーと対象のロガーを交換する必要があります。

注意： 交換されることなく ロガーが取り除かれると、これによって通信アラームがトリガーされます。

ロガーが切り替えられる場合、その変更がチャネル履歴レポート内に記録されます (この履歴レポートはレポート範囲でのロガーシリアル番号を表示します)。このレポート範囲の間に、このロガーが交換された場合、このイベントはそのレポートサマリー内に列挙されます)。この新しいロガーは、交換対象のロガー ID、ロガーとチャネル説明 (ヴァイサラ Veriteq ロガーのみ)、アラーム設定および転送スケジュールを継承します。



ロガーの切り替え方法：

- 1 新しいロガーが切り替えられるロガーと同じ設定がされてあることを確実にしてください ([システム] |[ロガー] で確認するか、vLog、Spectrum† またはヴァイサラ製品ユーザーガイド』をご参照ください)。

注意： 各ヴァイサラ Veriteq ロガーは、vLog または Spectrum を使用して再確認する必要があり、ロガーが接続されている COM ポートは [ツール] |[オプション] から選択する必要があります。

- COM ポート /IP アドレス。ロガーが同一の COM ポート上にあること (同一のケーブルに接続されている)。ネットワークデバイスとして接続されている 300 シリーズ変換機を切り替えようとしている場合、新しい変換機が同一の IP アドレスを所有していることを確実にしてください。
 - 名前。ロガーが廃棄されたり、または非アクティブ化されたりしていないこと。
 - ステータス。ロガーがアクティブなアラーム モードにないこと。
 - サンプル間隔。ロガーが同一のサンプル取得間隔を所有していること。
 - チャンネル。各ロガーが有効化済みの同一のチャンネルを所有しており、各対応チャンネル用に同一の測定単位を使用していること。
 - 監査証跡。ヴァイサラ Veriteq ロガーが vLog 監査証跡にリンクされていないこと。
- 2 [システム] |[ロガー] から、[ホスト] を選択してから、[ロガー] にて切り替え (削除する) ロガーを選択します。
 - 3 [ロガー] メニューにおいて、|||[アラームを一時停止する] を選択します。
 - 4 「アラームを一時停止する」画面内で、ロガーを切り替える理由についてのコメントの追加およびこの一時停止の予想される継続時間を指定することが可能です。これは、このロガーが切断された場合に通信アラームまたはしきい値アラームがトリガーされないことを確実にします。
 - 5 **[OK]** をクリックします。
 - 6 切り替えたいロガーを切断して、新しいロガーを接続します。300 シリーズ変換機を切り替える場合、電源コードを引き抜いてから、再度電源プラグを接続してください。
 - 7 **[更新]** をクリックしてそのロガー一覧を更新します (そのロガーが現れるのに数分間待機する必要がある場合もあります)。この新しいロガーが以前に切り替えされたものであるばあいには、これは非アクティブ化済みロガーの一覧内で発見されること


になります。([システム] | [ロガー] から [非アクティブ化されたロガーを表示する] をクリックします)

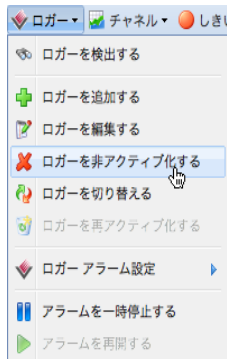
- 8 [システム] | [ロガー] から、削除したいロガーを選択します。
- 9 [ロガー] メニューにおいて、 [ロガーを切り替える] を選択します。
- 10 交換対象のフィールド内に正しいロガーが識別されていることを検証してから、**[OK]** をクリックします。viewLinc はこのロガーを再割り当てするようになります。
- 11 この [ロガー] メニュー上で、この新しいロガーのアラーム発行を再開させたい場合は、 **[アラームを再開する]** を選択します。

ロガー の削除

viewLinc の通信アラームはシステムと通信していないあらゆるロガーを通知するように設定されているために、ロガーをそのシステムから削除するには「ロガーの非アクティブ化」機能を使用する必要があります。

ロガーの非アクティブ化の方法 :

- 1 [システム] | [ロガー] から、対応するホストを選択してから、非アクティブ化したいロガーを選択します。
- 2 [ロガー] メニュー上で、 **[ロガーを非アクティブ化する]** をクリックします。



- 3 ダイアログが現れ、このロガーを削除したいことの確認を要求してきます。**[はい]** をクリックします。
これでこのネットワークからの対象のロガーの削除ができました。

ロガーのプロパティおよびエイリアスの編集


viewLinc では、ヴァイサラ Veriteq ロガーのプロパティの編集が可能です。説明 (ロガー内に保存される最長 16 半角英数文字数)、またロガーエイリアス (最長 64 半角英数文字数、ロガー内に保存されません) も同様に編集が可能です。viewLinc 内で 300 シリーズ変換機のエイリアスを編集できます。

ロガー プロパティの編集は、ViewLinc で使用するロガーの説明にロガーからの説明またはエイリアスを指定することを可能にしています。viewLinc が使用する 識別 (ロガーの説明および/ またはエイリアス) を [システム] | [優先項目] | [ロガーの説明] と選択して設定することが可能です (「ロガーおよびチャネル説明長の選択 (エイリアス)」、ページ 69 を参照)。

追加のロガー プロパティの変更には、ご使用のヴァイサラ製品『ユーザーガイド』をご参照ください。

注意: ご使用のロガーが vLog 監査証跡にリンクされている場合、最初にその監査証跡へのリンクを無効化するか、または vLog 内で該当のロガープロパティを編集するかする必要があります。

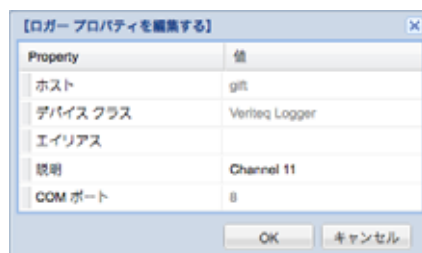
ロガー プロパティの編集の方法:

- 1 [システム] | [ロガー] から、ホスト を選択してから、プロパティを編集したい ロガー を選択します。
- 2 [ロガー] メニューにおいて、 [ロガーを編集する] をクリックします。または、対象のロガーの行をダブルクリックします。



- 3 ロガープロパティを編集する」画面内で、説明 のテキストボックス内に、その新しい情報を入力します (ヴァイサラ Veriteq ロガー用のみ最大 16 半角英数文字です)。エイリアス テキストボックス内で、希望する場合はより詳細なエイリアス (最大 64 半角英数文字) を入力します。このエイリアスは、[システム]

[環境設定] 内で指定した場合にロガー内に記録されている各説明のかわりに viewLinc が表示するようになります。




- 4 [OK] をクリックして保存します。

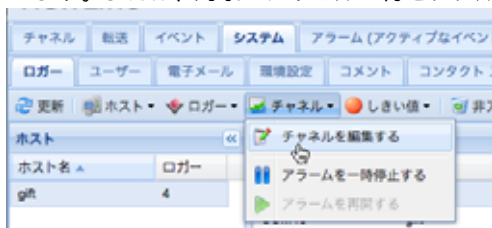
チャンネルプロパティおよびエイリアスの編集

利用可能である場合は、viewLinc はチャンネルの説明、エイリアス、および優先される温度単位の編集を可能にします。これは簡単に 1 つのチャンネルを画面上で識別するのに有用です。

注意： ご使用のロガーに依存し、すべてのロガーチャンネルがそれらの説明を変更できるわけではありません。

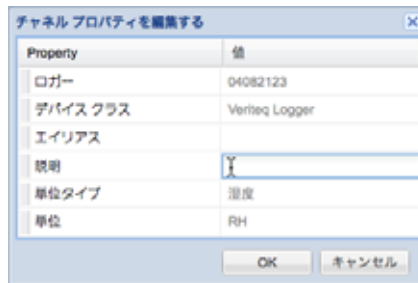
チャンネルプロパティの編集の方法：

- 1 [システム] | [ロガー] から、ホスト を選択してから、チャンネルのプロパティを編集したい ロガー を選択します。
- 2 編集したい チャンネル を選択します。
- 3 「チャンネル」メニュー上で、 [チャンネルを編集する] をクリックします。または、対象のチャンネルの行をダブルクリックします。



- 4 [チャンネルプロパティを編集する] ダイアログボックス内の、希望する場合は エイリアス テキストボックスに、より詳細なエイリアス情報 (最大 64 半角英数文字) を入力します。このエイリアスは、[システム] | [環境設定] 内で指定した場合に各ロガー内に記録されている各説明のかわりに viewLinc で表示されるようになります。

- 5 [説明] テキスト ボックス内に、説明 (最大 16 半角英数文字) を入力します。



- 6 システムのデフォルトの温度単位を使用したくない場合は ([システム] | [環境設定] タブ)、特定のチャンネルで使用される温度単位を変更することが可能です。既存の単位優先項目をクリアして、そのシステムデフォルトを受け入れる場合は、[優先単位] フィールド内でオプションの、[システムデフォルトを使用する] をクリックしてください。
- 7 [OK] をクリックして保存します。


電子メール設定の構成

アラーム通知は電子メール経由で送信されるため、管理者はメールサーバーから適切に電子メールメッセージを発信する

ために「電子メール設定」を行う必要があります。どのユーザー名およびパスワードを使用したらよいのかが不明である、またはどのチェックボックスを有効化するかが不明な場合は、担当の IT 管理者にご連絡ください。

電子メール設定の構成の方法：

- 1 viewLinc 内で、[システム] | [電子メール] を選択。「電子メール」画面が現れ、さまざまな viewLinc メッセージで使用する電子メール テンプレートを表示します。

- 2  **[電子メールの設定]** をクリックします。**[メール設定]** 画面が現れます



- 3 「管理者の電子メールアドレス」を入力します。このアドレスがすべてのシステム通知を受信するために使用されます。
- 4 有効な **[From アドレス]** を入力します。viewLinc からの通知はこのアドレスから「送信」されるようになります、それゆえこの電子メール アドレスが存在する必要があります。
例: viewlinc_system@yourcompany.com または controlroom47@yourcompany.com など。必要な場合には **[From アドレス]** を作成するために担当の IT 管理者に連絡してください。
- 5 **[送信サーバー]** エリア内で以下を入力します：
 - 送信 SMTP メール サーバー名
(例: mail.yourserver.com)
 - 送信メール サーバー ポート。担当の IT 管理者がこの情報を持っています。
 - 適切なサーバー タイムアウト 時間間隔。
- 6 ご使用の送信メール サーバーが認証を必要な場合は、**[SMTP 認証]** チェックボックスを選択して、そのサーバーで送信するのに必要なユーザー名およびパスワードを入力してください。
- 7 ご使用の送信メール サーバーが、メールの送信に先立ち POP3 接続経由での認証を要求する場合は、以下の各設定を構成してください：
 - a **[POP3 接続が必要です]** を選択します。
 - b 対応する受信 POP3 メール サーバー名を入力します。
 - c 対応する受信メール サーバー ポートを入力します。
 - d **[POP3 認証]** を選択してから、対象の viewLinc システムが使用するために有効な POP 3 アカウント用のユーザー名およびパスワードを入力してください。


- 8 【電子メールをテストする】 をクリックしてご使用の各設定を試験してください。これらが「OK」である場合は、続行してください。そうでない場合は、これらの各ステップで明示されているようにその試験電子メールが正常に発送されるまで各設定を調整してください。
- 9 【保存】 をクリックします。

アラーム電子メールテンプレートの編集

さまざまなアラーム通知内で各アラームに関して送信される情報を編集できます - 例えば、通信またはしきい値アラームについて通知する電子メール、繰り返し済みのアラーム、受信確認済みアラーム、ロガー転送などがあります。電子メールをメッセージデバイスまたは携帯電話へ送信するか、または会社組織内での特定の目的のために、内容の編集を希望する場合も考えられます。異なったアイテムを含めたり、または含めたりしないように電子メールテンプレートを編集可能です。以下がその例です。

- ロガーの説明
- イベントタイプ
- アラームの詳細
- 日付
- 時刻
- チャンネル
- コメント (カスタム化または各事前構成済みコメント)

電子メールテンプレートの編集の方法：

- 1 [システム] | [電子メール] から、編集したい対象の電子メールテンプレートを含んでいる行を選択して、 【電子メールテンプレートを編集する】 をクリックします。または、編集する行をダブルクリックします。対象の「電子メールテンプレート」画面が現れます。
- 2 「電子メールテンプレート」画面内で、対象の電子メールテンプレートメッセージを編集します。括弧 [] 内の各アイテムは、viewLinc が対象電子メール内に挿入するマクロ変数です。異なった変数を選択するには、1つのマクロを追加したい場所をク

リックしてから、**[マクロ]** をクリックし、そのドロップダウンリストから使用したい変数を選択してください。



- 3 終了したなら、**[保存]** をクリックします。

ユーザーとの作業

viewLinc をインストールすると、1 つのデフォルトの「admin」アカウント (フルコントロールを付与されたユーザーアカウント) が作成されます。そのユーザー名およびパスワードは、両方とも「admin」です。

この管理者パスワードを速やかに変更することは重要です (ユーザーおよびパスワードの編集「ユーザーおよびパスワードの編集」ページ 69 を参照)。

また、その他のユーザー用にアカウントを作成して、それらのログイン名、電子メール アドレスおよびスケジュール (アラーム通知を受信する時間帯)、セキュリティレベル、閲覧可能なチャネル、および認証の方法 (viewLinc ログインを使用するか、または Windows ログインと同じログインの使用するか) を指定する必要があります。

viewLinc は、以下の表で概略されたいくつかのユーザー セキュリティ レベルを提供しています：

セキュリティのレベル	権限
フル コントロール	<ul style="list-style-type: none"> フルの権限 viewLinc 3.4 およびそれ以前バージョンでは、これは「管理者」アカウントであったものです すべてのチャンネルを閲覧可能 (チャンネルの割り当てまたは制限は不可能)
アラームを構成する	<ul style="list-style-type: none"> [カスタムしきい値を構成する]の権限に、アラームの構成の権限が追加されたもの すべてのチャンネルを閲覧可能 (各チャンネルの割り当てまたは制限は不可能)
カスタムしきい値を構成する	<ul style="list-style-type: none"> [アラームの受信確認]の権限に、アラームしきい値の構成の権限が追加されたもの
アラームを受信確認する	<ul style="list-style-type: none"> [ビュー]の権限に、アラームの受信確認が可能な権限が追加されたもの
ビュー表示	<ul style="list-style-type: none"> ゾーンの表示および非表示 イベント ログの表示、編集、印刷および並び替え アラームおよび履歴データレポートの生成 チャンネルを限定して閲覧で割り当てが可能

表 5: viewLinc ユーザー セキュリティ レベルに関連した権限

コンタクト スケジュールの作成

viewLinc は、特定ユーザーが各アラーム通知を受信する回数を設定可能にしています。各ユーザーは、「常に」、「なし」、または各スケジュールされた時刻および各出勤の日付で各通知を受信するように設定可能です（例えば、7:00 ~ 19:00 での 4 日間出勤、5 日目休日のシフト、または 08:30 ~ 17:30 で 5 日間出勤、2 日間休日のシフト）。

各コンタクトスケジュールはユーザーアカウントに適用されるので、スケジュールのパターン（日にち、時間）をユーザーに適用する前に設定する必要があります。

コンタクト スケジュールの作成の方法：

- 1 [システム] | [コンタクト スケジュール] から、**+** [コンタクト スケジュールを追加する] をクリックします。この「コンタクト スケジュール」のエリアは、有効化されます。

日	時間間隔
1	08:30-12:00
2	
3	
4	
5	
6	
7	

1 日毎のコンマで区切られた複数の間隔を入力してください。
例: 07:30-12:00, 13:00-15:00 となります。

異なる1場合には、空白を入力してください。1 日中の場合は 00:00-24:00 を入力してください。

- 2 [状態] のドロップダウンリストから、[有効] を選択します。これは、開始日付、繰り返し日のパターン、およびその時間帯の設定を可能にしています。
- 3 そのテキスト ボックス内に入力するか、またはカレンダーから選択して 1 つの開始日付を選択します。
- 4 各繰り返し日数の指定。7 日間毎にそのコンタクトスケジュールを繰り返すには、7 を入力します。9 日毎には 9 を入力します。最大値は 99 日毎です。
- 5 各「時間間隔」行内に、以下の形式にて 24 時間表示で対象の時間間隔を入力してください: xx:xx-yy:yy、xx:xx がその開始時刻、yy:yy が終了時刻です。断続的な各スケジュールな場合には、各時間間隔を 1 つのコンマで区切ります。例えば、08:00-12:00, 13:00-16:00)。全日でのコンタクトには、00:00-00:00 を入力します。1 日内に全くコンタクトがない場合は、その日付欄を空白にしておきます。

- 6 **【保存】**をクリックします。ご使用のスケジュールは、「新しいコンタクトスケジュール」と名前が付けられるようになります。名前を変更するには、その行をダブルクリックしてください。
- 注意： 一時的にそのスケジュール化の能力を無効化することが出来ます。(例：通知を「常に」または「なし」で送信するようにするには、その**【状態】**ドロップダウンボックスから「常に」または「なし」を選択してください。後から設定した各スケジュールを選択または編集するためには、「有効」を再度選択します。

ユーザー アカウントの作成

ユーザー アカウントの作成の方法：

- 1 **【システム】|【ユーザー】**から、**+****【ユーザーを追加する】**をクリックしてください。
- 2 「ユーザー プロパティ」画面内で、対象ユーザーのログイン名を入力してください。

- 3 対象ユーザーの電子メールアドレスを入力します。
- 4 ユーザーの就業時間を考慮した各アラームの通知を可能にします。**【スケジュール】**のドロップダウンリストから対象ユーザーへアラームを通知すべき時間に対応する「スケジュール」を選択してください。常に (各ユーザーは常に各アラームを通知される)、なし (決して通知されません)、または別にリストされたスケジュールから選択してください。


注意: 「スケジュール」を指定するには、「コンタクト スケジュールの作成」, ページ 66 をご参照ください。

- 5 「セキュリティ」のエリアから、このユーザーが閲覧可能な各チャンネルを選択してください。「すべてのチャンネルを表示する」を選択するか、または [チャンネル] ボタンをクリックして特定のチャンネル (複数可) を指定するかのいずれかを実行してください。
- 6 そのユーザーのセキュリティ レベルを選択します:
 - [ビュー] = ユーザーはデータのみを閲覧可能 (各チャンネルおよび各アラーム状態、各レポートの生成)。
 - [アラームを受信確認する] = ユーザーは閲覧の各権限保有、各アラームの受信確認が可能。
 - [カスタム化しきい値を構成する] = ユーザーは閲覧および受信確認の権利を所有しており、各アラームしきい値を構成可能。
 - [アラームを構成する] = ユーザーは閲覧および受信確認の権利を所有しており、各アラームしきい値、各通信アラームおよび各ロガー アラームを構成可能。
 - [フル コントロール] = ユーザーがすべてのアクセス許可を所有。各ロガーの追加/非アクティブ化、ロガーおよびチャンネルの説明の編集、各ユーザーの管理、システムの環境設定、各レポートの作成、閲覧および割り当て。
- 7 Windows 認証を使用される場合は、その [Windows 認証] チェックボックスを選択します。viewLinc は 対象のユーザーのパスワードをログイン時に Windows のものを用いて検証するようになります。このオプションを使用して、各ユーザーの通常の Windows ユーザー名およびパスワードで viewLinc にログインさせることが可能となります。
- 8 パスワードを入力して確認します (このフィールドは viewLinc 認証を使用した場合のみ利用可能です)。
- 9 [保存] をクリックします。

注意: viewLinc は、変更が行われるごとに、または分で設定された時間経過後のいずれかにおいて各ユーザーのユーザー名およびパスワードを再入力させることでの各ユーザーに再識別を可能にする機能を提供しています。この環境設定にするには、セッション有効期限の設定「セッション有効期限の設定」, ページ 71 をご参照ください。

ユーザーおよびパスワードの編集


ユーザー アカウントおよびユーザー パスワードの編集の方法:

- 1 viewLinc 内で、[システム] | [ユーザー] に移動します。
- 2 対象のユーザーを選択して、 [ユーザーを編集する] を選択します。または、編集したいユーザーを含んでいる行をダブルクリックします。「ユーザー プロパティ」の画面が現れます。
- 3 この「ユーザー プロパティ」の画面から、必要な各設定項目を編集してください。
- 4 [保存] をクリックします。

注意: Windows 認証を使用していない場合にのみ、viewLinc 内での各パスワードの編集が可能です。



ユーザーの非アクティブ化

ユーザーの非アクティブ化の方法:

- 1 [システム] | [ユーザー] から、非アクティブ化したいユーザーを選択してください。
- 2  [ユーザーを非アクティブ化する] をクリックします。
- 3 この変更を [はい] をクリックすることで確認します。

ユーザーの再アクティブ化

ユーザーの再アクティブ化の方法:

- 1 [システム] | [ユーザー] から、 [非アクティブ化されたユーザーを表示する] をクリックしてください。すべての非アクティブ化済みユーザーが、灰色テキストで表示されます。
- 2 再アクティブ化したいユーザーを選択して、 [ユーザーを再アクティブ化する] をクリックします。

ロガーおよびチャンネル説明長の選択 (エイリアス)

ヴァイサラ Veriteq ロガーは、最大 16 半角英数文字の説明をそれらの内部に記録しています (300 シリーズ変換機は説明を記録していません)。各チャンネルの説明は最大で 12 半角英数文字長の記録が可能です。管理者によっては、長めでより情報量の多い説明の表示が好まれる場合もあります。これを実現するために、viewLinc は、1 つのロガーまたはチャンネルについて最大 64 半角英数文字長までの 1 つのエイリアスの設定を可能にしています。

viewLinc が対象ロガー内部に記録されたの説明か、またはそのエイリアスかを表示させるのを選択するには、[システム] | [環境設定] 内で [チャンネルの説明] および/または [ロガーの説明] を設定してください。

チャンネルまたはロガーの説明の優先項目の設定の方法：

- 1 viewLinc 内で、[システム] | [環境設定] に移動します。



- 2 「チャンネルの説明」の行内で、[ロガーからのチャンネルの説明の使用] または [チャンネルのエイリアスの使用] を値のドロップダウン リストから選択してください。
- 3 [ロガーの説明] 用にご使用の優先項目の選択を繰り返し設定してください。

温度測定単位の優先項目の選択

viewLinc がインストールされると、温度は摂氏度で表示されるように設定されています。摂氏または華氏のいずれかで各温度を表示するように viewLinc の構成が可能です。

温度測定単位の選択の方法：

- 1 viewLinc 内で、[システム] | [環境設定] に移動します。
- 2 [温度単位] を選択し、[値] カラム内で、[摂氏] (C) または [華氏] (F) のいずれかを選択します。

名称	値
チャンネルの説明	ロガーからのチャンネルの説明を使用する
ユーザーは自身の ID を確認する必要があります	なし
ロガーの説明	ロガーからの説明を使用する
温度単位	C
	C
	F

注意： この手順は、対象のロガーの温度測定方法を改変しません - これは温度が表示される単位を改変するものです (既に優先単位設定が割り当て済みのチャンネルは除外します)。

セッション有効期限の設定

viewLinc は、一定時間経過後に ユーザーまたは管理者にパスワードの再入力を求めるセッション有効期限を設定することが可能です。これは、viewLinc を非認証ユーザーの改ざん行為から保護するためのものです。この有効期限を、「なし」、「常に」(すなわち、対象システムへのいかなる変更の前にはパスワード確認が要求されます)、またはログイン後に 1、5、10、15、30 および 60 分間の時間間隔、各ユーザーのパスワードの再確認するかのいずれかを選択することが可能です。

この設定は、すべての viewLinc ユーザーおよび管理者に対して同一であります。

セッション有効期限の設定の方法：

- 1 viewLinc 内で、[システム] | [環境設定] を選択。
- 2 [ユーザーの ID の再確認] をクリックしてから、[値] カラム内で有効期限を選択してください。

名称	値
チャネルの説明	ログからのチャネルの説明を使用する
ユーザーは自身の ID を確認する必要があります	最後の認証から 5 分間
ログの説明	なし
温度単位	常に
	最後の認証から 1 分間
	最後の認証から 5 分間
	最後の認証から 10 分間
	最後の認証から 15 分間
	最後の認証から 30 分間

電子メール用事前構成済みコメント

管理者は、アラームおよび転送用の電子メール通知の一部として送信されるべき標準コメントを事前構成することが可能です。このコメントは「イベントログ」内に含まれます。これらのコメントを電子メール通知内に使用するには、その [コメント] パラメータが特定の [電子メールテンプレート] 内に存在する必要があります。例えば、1 つの「通信アラーム」をそれがトリガーされた時に誰かに電子メールするように設定している場合、そのアラーム用に選択された事前構成済みコメントは、対象の [コメント] が「通信アラーム」用の電子メールテンプレート内に含まれている場合その対象の電子メールに含まれるようになるということです。アラームテンプレート内で事前構成済みを利用している。またはアラームをカスタム設定する場合に利用可能となります。

事前構成済みコメントの作成の方法：

- 1 [システム] | [コメント] から、**+** [追加] をクリックしてください。



- 2 対象のテキストを含んでいるボックス内で、**[新しいコメント]** をクリックして、そのコメント入力して、**[Enter]** を押します。

事前構成済みコメントを使用する方法 (カスタム化通信ア

ラーム内での例):


- 1 [システム] | [ロガー] から、コメントを設定する対象のロガーを1つ強調表示して、**[ロガー]** をクリックしてから **[ロガー アラーム設定]** で **[ロガー通信アラーム設定]** を選択してください。



- 2 **[カスタムアラーム設定を使用する]** を選択します。
- 3 その **[コメント]** タブ上で、1つのコメントを **[事前構成済みコメント]** ドロップダウン リストから選択してください。ご使用の各事前構成済みコメントが、対象の **[コメント]** ボックス内で表示されるようになり、必要な場合にはそのテキストに追加の変更を行うことが可能になります。
- 4 **[保存]** をクリックします。
- 5 [システム] | [電子メール] から、編集する対象の電子メール テンプレートを選擇してください。この例では、**[ロガー通信アラーム]** を用いています。

- 6 [電子メールテンプレート] ダイアログから、その [コメント] 変数が存在していることを確実にしてください。なければ追加してください。(それが現れるべき位置にカーソルを挿入してから、[マクロ] | [コメント] と選択してください)。[通信アラームの設定] 内で選択されたこの事前構成済みコメントは、対象の電子メールメッセージ内に挿入されることとなります。
- 7 [保存] をクリックします。

事前構成済みコメントを削除する方法：

- 1 [システム] | [コメント] から。削除するコメントを強調表示させます。
- 2  [削除] をクリックします。

第章：イベント

すべてのイベント - アラーム、データ ロガーからのデータの転送、アラームの受信確認、システム構成の変更および一般的システム通知など - これらはイベント タブ内の viewLinc のイベント ログ内で追跡されています。

「イベント」内で追跡されたデータは、データ・ロガー内で追跡されたデータとは異なっています。viewLinc イベント ログは、対象の viewLinc システム内で発生しているイベントを追跡しています (ロガーから ローカルディレクトリへ正常な転送の通知など)、一方、データロガーは自身で温度、相対湿度または電圧の変化を追跡します。

viewLinc が継続的にイベント履歴を監視および記録することを確実にするために、その viewLinc イベント ログが変更されている場合にはイベント ログ検証アラームが通知します。イベント ログ検証アラームについての詳細は、第章：アラームをご参照ください。

いつどこで特定の問題が発生したかを特定するため、またはトラブルシューティングを必要とする 1 つの状態を診断するために、[イベント] タブを使用してイベントを分析します。

このセクションにおいての学習事項：

- イベントの表示
- イベントへのコメントの追加
- イベント ログの印刷
- .xls 形式へのイベント ログ データのエクスポートおよび保存

イベントの表示

イベントは、テキストベースの「イベントログ」上で表示されます。ロガーおよびシステム上で発生したすべてのイベントが含まれています。

イベントの表示方法：

- 1 viewLinc から、[イベント] をクリックします。「イベントログ」が現れ、各イベントを 1 つのリストで表示し、可能な場合は、イベントリストの右側にある「イベントの詳細」に該当イベントについてのコメントが表示されます。
- 2 日付および時刻セレクターを使用して、イベントを表示させたい時間間隔を選択してください。日付を入力するか (MM/DD/YYYY HH:MM の形式を使用) またはカレンダーを使用して範囲を指定するかしてください。




- 3 日付および時刻セレクターの右側のボタンを使用し、各ボタンを選択または選択解除して特定のタイプのイベントの詳細を表示するようにします。利用する結果をフィルターするためにイベントタイプ ボタンを選択した後、[更新] をクリックして対象のリストを更新します。より多くのボタンの数を選択解除すると、表示されるリストはより短くなります。表示可能な選択項目：
 - アラーム イベント。指定された時間間隔の間にトリガーされたアラームのリスト。
 - 管理者イベント。ViewLinc へのログインおよび新しいアラームしきい値設定など、実行された管理者操作の 1 つのリスト。
 - 転送イベント。指定された時間間隔の間に実行されたロガーデータ転送のリスト。
 - システム イベント。構成オプションの変更のリスト、または viewLinc サーバーおよびデータロガー間でのあらゆる通信の試行の失敗。

イベントへのコメントの追加

イベントの発生理由の概略または イベントや問題への応答で実行された事項など、「イベント ログ」にコメントを追加したい場合が考えられます。

「イベント ログ」へ コメントを追加する方法：



- 1 viewLinc から、[イベント] をクリックします。
- 2 コメントを追加する対象の行（イベント）を強調表示させて、 [コメントを追加する] をクリックします。「イベントにカスタムコメントを追加する」画面が現れます。



- 3 使用するコメントを入力してから、[保存] をクリックします。
- 4 特定イベントのついでに コメントを表示するには、対象のコメントを含んでいる行を強調表示させて、その「イベントの詳細」エリア内の対象コメントを探します。

イベント ログの印刷

イベント ログの印刷方法：

- 1 viewLinc から、[イベント] をクリックします。
- 2 印刷対象としたい日付および時刻を選択します。[日付/時刻] ボックス内に、日付および/または 24 時間表示で時刻を入力するか、またはカレンダー アイコンをクリックして選択を実行します。
- 3 日付および時刻セレクターの右側の各ボタンを使用して、「アラーム イベント」、「管理イベント」、「転送イベント」および/または「システム イベント」のいずれかを含めるか、含めないかを選択してください。
- 4  [更新] をクリックします。
- 5  [印刷] をクリックします。

- 新しいブラウザ ウィンドウ内で、プリント用の「イベント ログ」レポートが開かれます。

イベント ID	日時範囲	メッセージ	デバイス/ユニットの位置	イベントの種類	コメント
128	Wed Feb 16 12:48:18 2011	デバイスまたはアラーム 動作異常発生。	alarm	異常	アラーム コメント: アラーム ログ: アラーム 状態: Supplemental/Compendiate user session of class com.vaadin.ui.data.ColumnView (default theme?) アラーム イベント: アラーム コメント: アラーム ログ: アラーム 状態: アラーム イベント: アラーム コメント: アラーム ログ: アラーム 状態:
127	Wed Feb 16 12:48:18 2011	ユーザー admin がシステム管理画面からのパスワード変更。ユーザーは現在の ID を確認する必要がある。新しいパスワードは自動的に生成されました。	admin	異常	パスワード: ユーザー: admin 新しい ID: 自動生成された
126	Wed Feb 16 12:48:18 2011	ユーザー admin がアラーム "新しい温度アラーム" をオフにしました。	alarm	異常	アラーム コメント: アラーム ログ: アラーム 状態: アラーム イベント: アラーム コメント: アラーム ログ: アラーム 状態:
125	Wed Feb 16 12:47:58 2011	ユーザー admin が デバイス Temperature (ID 124) (型: GP404) の温度を 25.0°C (77.0°F) に設定しました。現在の設定値は 20.0°C (68.0°F) です。	admin	異常	デバイス ID: デバイス Temperature (ID 124) (型: GP404) (温度: 25.0°C (77.0°F)) ユーザー: admin 新しい ID: 自動生成された
124	Wed Feb 16 12:47:58 2011	ユーザー admin が コピー GP404 (温度: 25.0°C (77.0°F)) の温度を 20.0°C (68.0°F) に設定しました。現在の設定値は 20.0°C (68.0°F) です。	admin	異常	デバイス ID: コピー GP404 (温度: 25.0°C (77.0°F)) ユーザー: admin

- [印刷] ダイアログ ボックスが自動的に開かれ、プリント パラメータの設定を可能にして、「イベント ログ」が印刷されます。

「イベント ログ」のエクスポート

viewLinc で後日の分析用に 1 つの保存済みの .XLS ファイル内にイベント ログ データをエクスポートすることが可能です。

イベント ログをエクスポートする方法:

- viewLinc 内で、[イベント] をクリックし、エクスポート対象としたい日付範囲を選択します。[日付/時刻] ボックス内に、日付および/または 24 時間表示で時刻を入力するか、またはカレンダー アイコンをクリックして選択を実行します。
- 日付および時刻セレクターの右側の各ボタンを使用して、「アラーム イベント」、「管理イベント」、「転送イベント」および/または「システム イベント」のいずれかを含めるか、含めないかを選択してください。
- [更新] をクリックします。
- [Excel へエクスポートする] をクリックします。「ファイルのダウンロード」ダイアログが開かれ、対象のイベント .tsv ファイルを開くかまたは保存かを確認します。

第章：レポート

viewLinc を使用して、ヴァイサラロガーにより収集された履歴データの変動を分析するグラフおよびレポートが作成可能です。

この章において、履歴データの意味とその使用法について学習します：

- 履歴データの分析
- グラフィカルおよびタブ形式での履歴データ レポートの生成
- 新しいレポートおよびレポート テンプレートの作成
- レポートの削除

履歴データについて



ヴァイサラデータロガーは、それらの内部に膨大なデータの量を記録する能力を保有しています。データは、10 秒間毎に 1 回から 24 時間毎に 1 回までの頻度でログされます。この頻度の設定には -- これはサンプル時間間隔と呼ばれており -- ヴァイサラ Veriteq ロガーについては、『Spectrum ユーザーガイド』または『vLog ユーザーガイド』をご参照ください。300 シリーズ変換機用にサンプル時間間隔を設定するには、「電子メール設定の構成」、ページ 61 をご参照ください。

viewLinc により、対象ネットワークを通じてロガーについてリアルタイムでの監視が可能であり、諸条件のグラフでの変化、または異なったロガー間で記録された各条件を比較することが可能です。この分析は、[レポート] タブを使用して実行されます。

つのヴァイサラ Veriteq ロガーからの履歴データは、設定されたスケジュールで ローカルディレクトリへ - viewLinc の [転送] タブを使用して - 毎日また毎週の頻度で、転送させることも可能です。一旦、転送されると、データは、ご利用されるレポートでの必要に応じてエクスポート用 (.xls への変換) および印刷用に取得可能となります。詳細については、第章：読みみをご参照ください。

履歴データ レポートの生成

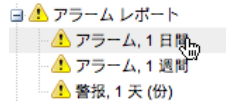
viewLinc は、データ読み取りまたはアラーム監視の統計 (アラームトリガーの頻度など) で簡単に傾向の表示を支援可能なグラフィカル レポートのセットを提供しています。

-  「アラームレポート」は、時間軸にわたるアラーム イベントの 概説を提供しています (イベント アラーム関連したイベントと一緒にグループ化され、読み取り可能なフォーム内に提示されています)。
-  「チャンネルの履歴レポート」は、チャンネル値の 詳細な履歴を提供しています (グラフィカルフォームおよび表形式フォームの両方で提示されます)。

アラーム履歴レポートの生成

「アラーム履歴レポート」生成の方法：

- 1 [レポート]タブ上の [アラーム レポート]リスト内で、生成しようとするレポートを選択してください。



レポート パラメータは、ご利用の画面右側に現れます (ユーザーは、自身が生成しているレポートまたは所有者アクセス許可を供与されているレポートのレポートパラメータのみを閲覧できます)。


- 2 **[全般]** タブ上で、レポートが反映する期間を指定してください。デフォルトオプション [直近のイベント]、または固定の期間の範囲指定ができます。データ範囲を選択する場合は、カレンダーを使用して開始/終了日付を指定してください。

注意： 管理者アクセスを所有している場合、このレポートを変更または生成するアクセスを所有させたい対象のユーザーを「レポート所有者」を選択することができます (ユーザーのリストを設定するには、「ユーザー アカウントの作成」、ページ 67 をご参照ください)。



- 3 **[一般]** タブの「スケジュールされた作成」エリア内で次のような構成ができます。ご使用になるレポートの形式 タブの「スケジュールされた作成」エリア内で次のような構成ができます。ご使用になるレポートの形式 (PDF または Excel 用のタブ区切り) を選択出来ます。自動的にこのレポートを生成し特定のファイル場所に保存するか、またはそのレポートを電子メールアドレス宛、アドレスのリスト (コンマを使用して電子メールアドレスをコンマで区切られた) 宛へ自動的に送信することが可能です。いつそのレポートを生成したいか、どのくらいの頻度で生成したいかをスケジュールすることも可能です。

注意： 大サイズのレポートデータのセットについて、より少ない数のユーザーがこのシステムを利用している時、営業時間後などに、レポート生成をスケジュールされることを推奨しています。

- 4 [レポート内容] タブ上で概略アラームレポート (アラーム毎に1行を割り当て) または詳細アラームレポート (すべてのアラーム事象についての詳細の表示: アクティブ化、通知、受信確認、その他などが含まれる) のいずれかを決定してください。
- 5 [レポート ソース データ] タブ上で、そのレポートの対象を定義してください。すべてのチャンネルからのアラーム レポートの詳細を含ませるには、[すべてのチャンネル] を選択してください。特定のチャンネルおよびゾーンを選択することも可能です:
 - a [選択したチャンネルおよびゾーン] のオプションを選択します。
 - b ゾーン内での1つのゾーン内で1つ以上のチャンネルを選択される場合には、その[ゾーン名] (チェックボックス) を選択してください。
 - c ゾーン内で1つの特定のチャンネルを選択される場合は、対応する[チャンネルの説明] (チェックボックス) を選択してください。
 - d これらのステップをそのレポート上に含ませたいチャンネル毎に繰り返してください。すべての選択済みチャンネルは「選択済み」領域内に現れます。
- 6 [ページ レイアウト] タブ上で、ご使用のレポート表示オプションを定義してください:
 - a ページ ヘッダーおよび / またはページ フッターの各オプション: その ページ上に1つのヘッダーまたはフッターを表示させたいページを選択してください。そのヘッダーまたはフッターを定義されるには、テキストをその「左側」、「中央部」または「右側」のフィールド内に入力してください。
 - b 印刷したい印刷用紙のサイズ、および方向を選択することも可能です。
- 7  [保存] をクリックします。
- 8 そのレポートを手動で生成するには、[レポートを作成する] から、[Excel へのエクスポート] または [PDF レポートの生成] を選択してください、



チャンネル履歴レポートの生成

チャンネル履歴レポートの生成の方法：

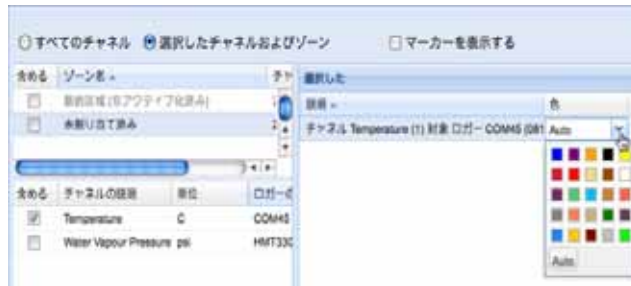
注意： viewLinc では、いかなるデフォルトのチャンネル履歴レポートも提供していません。「チャンネル履歴レポート」を生成すると、そのレポートが自動的に保存されます。

- 1 [レポート] タブ上の [チャンネルの履歴レポート] リスト内で、生成しようとするレポートを選択してください。そのレポートの詳細がその画面の右側に現れます。
- 2 [一般] タブ上で、このレポートに対してアクセス件を付与したいユーザー（「フルコントロール」を付与されていない場合です）、および レポートが反映する期間を指定するか、または [直近のイベント] を選択してください。
- 3 「スケジュールされた作成」エリア内で、ご使用のレポートの形式エリア内で次のような構成ができます。ご使用になるレポートの形式（PDF または Excel 用のタブ区切り）を選択出来ます。自動的にこのレポートを生成し特定のファイル場所に保存するか、またはそのレポートを電子メールアドレス宛、アドレスのリスト（コンマを使用して電子メールアドレスをコンマで区切られた）宛へ自動的に送信することが可能です。いつそのレポートを生成したいか、またどのくらいの頻度で生成したいかをスケジュールすることも可能です。



注意： 大サイズのレポート データのセットについて、より少ない数のユーザーがこのシステムを利用している時、営業時間後などに、レポート生成をスケジュールされることを推奨しております。

- 4 [レポート内容] タブ上で、「ロガー サンプル」（該当データ ロガーの内部メモリから取得済みのデータ ポイント）、「ロガーサンプルの統計」（これは [統計設定] タブ内での [統計設定] の変更を可能にする）、「リアルタイム サンプル」および/または「しきい値」でレポートに含めたいデータのタイプを識別してください。
- 5 「ロガーサンプルの統計」を含めている場合は、[統計設定] タブを使用してどのように使用するレポート上で情報が表示されるか、およびそれに含めたいあらゆる統計的情報を定義してください。
 - a [統計設定] で、1 つのレポートの時間フレーム内で継続的に統計を生成したい場合には 統計インターバルを選択してください。たとえば、7 日間（1 週間）の時間間隔を基準にご利用のレポートが生成される場合で、統計データを毎日表示されたい場合が考えられます。

- b** 「包める」項目のエリア内で、最大値、平均値、最小値、標準偏差および平均動態温度 (MKT) を含んだ統計データのタイプを選択してください：
- その活性化エネルギーを指定したい場合は、「平均動態温度」を確認し、[KJ/mol] 単位表示で活性化エネルギーを指定してください。
- 6** [レポート ソース データ] タブ上で、そのレポートの範囲および色を定義してください。すべてのチャンネル上でレポートを実行するには、【すべてのチャンネル】を選択してください。特定のチャンネルおよびゾーンを選択することも可能です：
- a** [選択した済みチャンネルおよびゾーン] オプションを選択します。
- b** ゾーン内の 1 つ以上のチャンネルを選択するには、そのゾーン名を選択してください。
- c** ゾーン内で 1 つの特定のチャンネルを選択される場合は、対応するチャンネルの説明のチェックボックスで選択してください。
- d** そのグラフにインデックスを追加するには、【 マーカーを表示する 】を選択します。
- e** 特定のチャンネルのデータを強調表示する色を指定するには、そのチャンネルを選択してから、[色] ドロップダウンリストから 1 つのオプションを選択します。[Auto] を選択している場合、viewLinc はそのデフォルト色スペクトルに従って色を選択します：



- f** そのチャンネル ライン色が「自動」に設定されている場合、viewLinc は色の組み込みパレットから次に利用可能な色を割り当てます (この色スペクトル シーケンスについては、ページ 103 をご参照ください)。これらをそのレポート上に含ませたいチャンネル毎に繰り返してください。すべての選択済みチャンネルは「選択済みゾーン」領域内に現れます。




- 7 [ページ レイアウト] タブを使用して、ヘッダー、フッター、用紙サイズおよび印刷方向を定義してください。
 - a ヘッダーまたはフッターのオプションについては、すべてのページ上、最初のページ上のみ、最後のページ上のみ、または最初および最後のページ上のいずれかを設定可能です。
 - b ご使用のヘッダーまたはフッターの内容を定義されるには、テキストをその「左側」、「中央部」または「右側」のフィールド内に入力してください。
 - c 印刷したい対象の用紙サイズ、およびその方向を選択することも可能です。
- 8  【保存】をクリックします。
- 9 そのレポートを手動で生成するには、 【レポートを作成する】をクリックしてください。

新しいレポートの作成

viewLinc は、変更可能なデフォルトレポートテンプレートのセットを提供しています。他のユーザが使用するために、変更して新しいレポートテンプレートとして保存することも可能です。

変更を標準レポートテンプレートとしたい場合には、[新しいチャンネルの履歴レポート] または [新しいアラームレポート] の機能を使用してください。の既存のレポートテンプレートに類似している新しいレポートを定義したい場合には、[レポートをクローンする] 機能を使用してください。


新しいアラームレポートまたはチャンネル履歴のレポートの作成の方法：

- 1 [レポート] ツールバー内で、作成したいレポートのタイプのボタンを選択してください。⚠️ [新しいアラームレポート]、 [新しいチャンネルの履歴レポート]、(または  【レポートをクローンする】) を選択してください。
- 2 それらのレポート パラメーターを希望するように表示されるように完成させてください。
- 3 そのレポートに新しい名前を割り当てるには (デフォルトでは選択済みの各パラメーターを基準にした 1 つの名前が生成されます)、そのタイトルをクリックしてそのテキストを編集可能にして、名前を入力してください。
- 4  【保存】をクリックします。

ご使用の新しいレポートが保存され、そのレポート リスト内にアルファベット順で現れます。

レポートの削除

使用されなくなったレポートの削除の方法：

- 1 【レポート】タブ上で、削除したいレポートを選択します。
- 2 【削除】をクリックします。
- 3 その確認ダイアログで、**[OK]** をクリックします。

第章：読み込み

このセクションで解説する項目：

- 履歴データのヴァイサラ Veriteq ロガーからの転送
- スケジュール済みデータ転送の作成、編集、非アクティブ化および一時的無効化

転送および転送スケジュール

viewLinc 内でご使用のデータロガー履歴の表示が可能なことに加えて、ワークシートまたはその他のデータ分析ツールでの表示および分析用にご使用のヴァイサラ Veriteq ロガー データの転送が可能です。


設定されたスケジュールに従ってヴァイサラ Veriteq ロガー データを転送できます。転送は事前にスケジュール化することが可能であるため、対象の転送が実行される時に立ち合われる必要はありません。いかに頻繁にデータ転送をスケジュールされるかに関係なく、対象ロガー内のデータは改変されず、無制限に記録されます（あるいは対象ロガーがそのメモリ容量を使いきるまで）。

ご利用のヴァイサラ Veriteq ロガー データのバックアップ目的用に定期的な転送を推奨しています、一切データの上書きがされないことを確実にしてください（詳細については、『vLog ユーザー ガイド』の「ロガー データ記憶域容量」をご参照ください）。ロガーからの転送は、ロガー毎にデータファイルを作成します。

注意： すべてのヴァイサラ Veriteq ロガーは、そのロガーが検出されたときにデフォルトの転送スケジュールを割り当てられています。この転送は、有効化され、7日間の間隔でスケジュールされています。ご使用のロガーがこの間隔が完了する前にその記憶域容量を使い切ってしまうような場合には、データの損失を発生させないことを確実にするためにこの間隔を調整することが可能です。

転送スケジュールの作成

転送スケジュールの作成方法：

- 1 viewLinc から、[転送] をクリックします。
- 2  [新しい転送] をクリックします。
- 3 「ロガー転送のプロパティ」ウィンドウから、「全般」エリア内で、[この転送を有効にする] をクリックします。新しい転送は、デフォルトで無効化されています。
- 4 [ロガー] ドロップダウンリストから、その転送を設定したい対象のロガーを選択してください。

- 5 転送が失敗した場合に通知を受信する電子メール アドレスを入力してください。1つの電子メール アドレス、コマで区切られた電子メールのリスト、または IT 管理者によりご利用のメール サーバー上で作成済みの配布リストを選択することができます。
- 6 正しい各メール サーバー設定が、「電子メール設定の構成、」ページ 61 にて設定されていることを確実にしてください。
- 7 「スケジュール」エリア内で、転送スケジュール間隔および開始日付および時刻を選択してください。この [開始時刻] は、15分の間隔のドロップダウン リストとなっています。たとえば、7日間毎の1つのデータ転送を開始時刻 2011-11-14 午後 11:15 で設定することが可能です。
- 8 「転送先」エリア内で、保存される .spl ファイルの保存先を選択してください (マップ済みドライブ パスは使用しないでください)。サンプルのディレクトリ パスは: c:\logger_files または ¥¥< コンピュータ名 >¥< 転送先ディレクトリ名 > のようになります。その対象の viewLinc ホストサーバー上のディレクトリの使用を推奨しております (例: c:¥< 転送先ディレクトリ名 >)

注意: データ転送中に、その対象先ディレクトリまたは共有ディレクトリに保存するために有効なユーザー名およびパスワードを要求するダイアログが現れる場合もあります。また、viewLinc と共にインストールされた該当アカウント (すなわち、この viewLinc Enterprise Server サービスを実行している) が、対象の転送されるデータが到達する該当ディレクトリに書き込むための十分な各アクセス許可を所有していることを確実にしておく必要があります。viewLinc の「サービス」についての詳細は「補足: FAQ & トラブルシューティング、」ページ 93 をご参照ください。

- 9 ファイル名を構成することとなる各識別用フィールドの順番を指定することで転送されるファイルのファイル名を指定してください。.spl ファイル用のファイル名は、対象ロガーの説明、そのシリアル番号、およびそのファイルが保存された日付と時刻の組み合わせから作成されます。たとえば、「ロガー ID-08094523-2011-04-22 16-30-01.spl」となります。
- 10 この画面下部において、事前構成済みコメント、またはこの転送を関連付けたい、その目的、各電子メール通知が送信されるべき受信者、およびその他の項目などのコメントを入力してください。
- 11 定義されたようにこの転送が完了したかを試験するには、[すぐに転送する]をクリックしてください。対象のデータは、指定された場所に転送されるはずです。
- 12 [保存]をクリックして 1 つのスケジュール済み転送用のこれらの設定を保存します。設定された各ロガー向けのスケジュールされた転送の情報を含んでいる行が、「転送」内に現れます。


即時データ転送の実行

即時データ転送の方法：

- 1 「転送スケジュールの作成、」ページ 88 内でステップ 1 から 10 を実行（または 1 つの既存の転送を編集します）してから、[すぐに転送する]をクリックしてください。対象のデータは、指定されたその場所に転送されるはずです。
- 2 [保存]をクリックしてそのスケジュール済み転送を保存するか、または [キャンセル]をクリックして終了します。

転送スケジュールの編集


スケジュール済み転送の編集方法：

- 1 [viewLinc] から、[転送] をクリックします。
- 2 編集するスケジュール済み転送（複数）が含まれている行を選択します。
- 3  [転送を編集する] をクリックします。
- 4 「ロガー転送のプロパティ」画面が現れます。必要に応じてこれらの転送の詳細を編集します。
- 5 [保存] をクリックします。

転送スケジュールの非アクティブ化

ヴァイサラ Veriteq ロガーを切り替えたい、またはご使用の転送リスト内にある転送スケジュールを使用したくない場合には、対応する転送スケジュールを無効化してください。

スケジュール済み転送の非アクティブ化の方法：


- 1 viewLinc から、[転送] をクリックします。
- 2 非アクティブ化したいスケジュール済み転送が含まれている行を選択します。
- 3  [転送の非アクティブ化] をクリックします。
- 4 この非アクティブ化を確認する 1 つのダイアログが現れます。
[はい] をクリックします。

すべての非アクティブ化済み転送を表示するには、[非アクティブ化済み転送の表示] をクリックします。灰色のテキストでご使用のリスト内に各非アクティブ化済みの転送が表示されます。

転送スケジュールの一時的な無効化

ヴァイサラ Veriteq ロガーを切り替えたい、またはご使用の転送リスト内にある転送スケジュールを使用したくない場合には、対応する転送スケジュールを無効化してください。

スケジュール済み転送の一時的な無効化の方法：

- 1 viewLinc から、[転送] をクリックします。
- 2 編集するスケジュール済み転送が含まれている行を選択します。
- 3  [転送を編集する] をクリックします。
- 4 [ロガー転送のプロパティ] 画面から、[この転送を有効にする] の選択を解除します。
- 5 [保存] をクリックします。

補足 : FAQ & トラブルシューティング

このセクションは、viewLinc デバイスおよび Net デバイス類または Digi デバイス類でよくある質問とその回答および一般的な問題のトラブルシューティングのための情報が含まれています。

管理者の 1 員として、ご利用の PC 上で実行している viewLinc サービスの詳細を必要とされる場合も考えられます。このセクションには、viewLinc の一部としてインストールされているファイルの情報も含まれています。

質問: どのように viewLinc は機能するのですか?

回答: viewLinc は 1 つの Windows サービスとして自動的に起動され、実行されています。その viewLinc サーバー を起動される時に、このサービスは自動的に開始されます。

この viewLinc Enterprise Server は、ロガーからのデータ収集、スケジュール済み転送の実行、アラームの監視、あらゆる関連操作の実行、ユーザーの管理、およびシステム全般のコントロールおよびユーザー特定の設定のマネージメントを行っている 1 つのサービスです。

質問: どのタイプの HMT 変換器が viewLinc3.6 に対応していますか?

回答: 次のリストのものです:

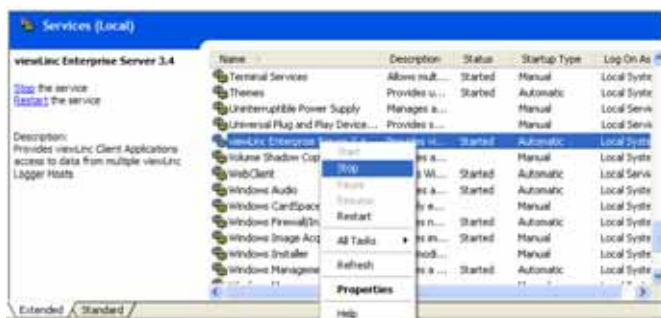
HMT331、HMT332、HMT334、HMT335、HMT337、HMT338
DMT342、DMT334、DMT335、DMT336、DMT337、DMT338
MMT332、MMT337、MMT338
PTU301、PTU303、PTU307、PTU30T

質問: どのように viewLinc を停止またはオフにするのですか?

回答: 以下のステップを完了させてください:

- 1 ご利用の Windows PC 上で、[スタート] | [設定] | [コントロール パネル] | [管理ツール] | [サービス] の順に選択します。

- すべての viewLinc サービスを停止させます: サービスのリストから、対象のサービスを右クリックしてから (viewLinc Enterprise Server または viewLinc Logger Host、viewLinc Watchdog、および viewLinc POS Display)、そのポップアップメニューから、[停止] を選択します。



質問: viewLinc と共にインストールされているファイルは何ですか?

回答: viewLinc の一部としてインストールされているほとんどのファイルは 1 つのディレクトリ内にインストールされています - デフォルトでは、"viewLinc" です。インストールの際に、管理者はデフォルトの場所および名前を変更することができます。

viewLinc の一部としてインストールされているファイルへのデフォルトでのパスは、C:\Program Files\Veriteq Instruments\viewLinc です。データベースをご利用のネットワーク上の別の場所へ移動させることも可能です。

注意: viewLinc 3.4 または 3.5 から viewLinc 3.6 へアップグレードされる場合、そのデフォルトのパスは、C:\Program Files\Veriteq Instruments\viewLinc 3.4 です。

この viewLinc インストーラーは、1 つのプログラム グループ、「Veriteq Instruments」を「スタート」メニュー内に作成します: C:\Documents and Settings\All Users\Start Menu\Programs\Veriteq Instruments がそのパスです。インストールの際に、この viewLinc インストーラーは「Veriteq Instruments」プログラムグループ内にデフォルトで viewLinc ログインページおよび viewLinc ヘルプホーム ページの両方にショートカットを配置します。

インストールの際に、この viewLinc インストーラーは viewLinc ログイン ページおよび viewLinc をインストールした管理者用のデフォルトの viewLinc ヘルプ ホーム ページの両方にショートカットを配置します: C:\Documents and Settings\<administrator_profile>\Start Menu\Programs\Veriteq Instruments がそのパスです。

viewLinc を実行しながら、対象のロガーから 1 つのユーザー指定の場所にロガー データ (.spl ファイルにて) を転送することができます。これらの .spl ファイルは該当のユーザーによって指定された 1 つの場所に保存されます。1 つの 2-チャンネル ロガーの一般的な .spl ファイルは、約 85KB です。

viewLinc は、本アプリケーション内で表示可能な「イベント ログ」を作成します。このデータは、インストール ディレクトリ内に格納されています。

質問: 使用しているネットワークはヴァイサラ Veriteq ロガーおよび 300 シリーズ変換機の組み合わせを使用しています。どのようにこれらを迅速に追加できますか?

回答: 複数の変換機または複数のロガーおよび変換器の組み合わせを一度に追加するには、一行毎に 1 個のロガーまたは変換機の定義を含む .txt ファイルを作成します。そのロガー クラスおよびロガー プロパティを識別するフィールドを追加してください (それぞれのフィールドをタブで区切ります)。

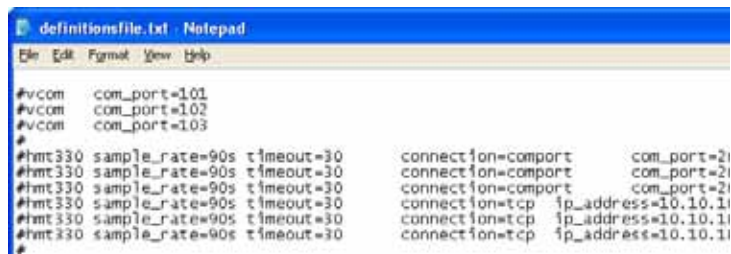
vcom タイプ デバイス (ヴァイサラ Veriteq ロガー) を設定するには、ご使用のロガーが接続されている COM ポート番号を定義してください。例:

```
vcom com_port=101
vcom com_port=102
vcom com_port=103
```

hmt330 タイプ デバイス (300 シリーズ変換機) を設定するには、以下を定義してください:

- sample_rate = そのロガーの内部サンプル レート
- timeout = 通信イベント用のタイムアウト
- connection = その接続のタイプ、COM ポートまたは TCP
- com_port = ご使用のロガーが接続されている COM ポート番号 (COM ポート接続用の値はユーザーにより定義される値で)
- ip_address = ご使用のロガーの IP デバイス アドレス (TCP 接続)
- ip_port = TCP ポート (TCP 接続用、ip_address および ip_port 用の値、これらはユーザーにより定義される値です)
- TCP 接続および COM ポート接続用の共通値:
 - sample_rate = 10 [秒]、**90 [秒]** (デフォルト)、12 [分]、2 [時間]、12 [時間]、2 [日]、または 12 [日]
- COM ポート接続用のオプションの値:
 - baud = 300、2400、4800、9600、**19200** (デフォルト)、57600、または 115200
 - stopbits = **1** (デフォルト) または 2
 - databits = 7 または **8** (デフォルト)
 - parity = odd (奇数)、even (偶数) または **none** (なし) (デフォルト)

例 :



```
definitionsfile.txt - Notepad
File Edit Format View Help

#vcom com_port=101
#vcom com_port=102
#vcom com_port=103
#
#vmt330 sample_rate=90s timeout=30 connection=comport com_port=21
#vmt330 sample_rate=90s timeout=30 connection=comport com_port=21
#vmt330 sample_rate=90s timeout=30 connection=comport com_port=21
#vmt330 sample_rate=90s timeout=30 connection=tcp ip_address=10.10.11
#vmt330 sample_rate=90s timeout=30 connection=tcp ip_address=10.10.11
#vmt330 sample_rate=90s timeout=30 connection=tcp ip_address=10.10.11
#
```

質問: IP アドレス をどのようにロガーに追加するのですか?

回答: それはできませんが、IP アドレスをご使用の通信デバイスに割り当てることになります。なぜなら、viewLinc は、COM ポートを使用して通信しており、データ ロガーのイーサネット/IP アドレスを使用した対象ネットワークへの接続にはネットワーク デバイスの使用が必要となるからです。vNet デバイスまたは Digi デバイスは仮想 COM ポートを作成しデータ ロガーのイーサネットを使用している viewLinc との通信を可能にしています。弊社は、ご使用のデバイスには動的 IP アドレスを使用されなくて、1 つの予約済みまたは静的 IP アドレス (担当の IT 部門から指定された) のご使用を推奨しております。IP アドレスがドライバー構成の際に vNet デバイスまたは Digi デバイスに割り当てられます。インストールの指示については vNet デバイスまたは Digi デバイスについての『ヴァイサラ Veriteq クイックスタートガイド』をご参照ください。vNet についての詳細は、www.vaisala.com/veriteq にてご参照ください。Digi 製品については、www.digi.com をご参照ください。

質問:どのように viewLinc がどのデバイスが (ロガーに接続済みである) 自身に割り当てられているのかを知ることができるのですか?

回答:それはできません。ご利用のネットワークデバイスはviewLinc に対して『割り当て』られるものではなく、viewLinc が COM ポートに接続されているロガーに対してネットワークを監視しているからです。前述されているように、viewLinc ソフトウェアは、COM ポート経由で通信しています。『クイック スタート ガイド』に従って1つのネットワーク デバイスをインストールすることは、viewLinc によって管理される仮想 COM ポートを作成するという事です。

vNet デバイスまたは Digi デバイスに割り当てられた COM ポート (仮想またはその他の場合) を見るには、「デバイス マネージャ」を利用します:

- 1 「デバイス マネージャ」を開きます ([スタート] から [設定] | [コントロール パネル] | [管理ツール] | [コンピュータの管理] と選択します。「デバイス マネージャ」は左側に位置しています)。
- 2 一旦、「デバイス マネージャ」が開かれると、[ポート] (COM および LPT) を展開して COM ポートが接続されているデバイスを表示させます。デフォルトでは、vNet デバイスは、「CDL-VNET-P - モデル名」、Digi デバイスは、「Digi xxxxx (x は該当デバイスのシリアル番号に対応する) とそれぞれ命名されています。
- 3 詳細については、「デバイス マネージャ」内で、「マルチポート シリアル アダプター」以下で確認したいデバイスを右クリックしてください。[プロパティ] を選択して、[詳細] タブを選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。その左側に、このデバイスが使用している COM ポートのリストが表示されるようになります。

viewLinc によってコントロールされているロガーを表示するには、[システム] タブを表示させます。

質問:使用するアラーム システムの一部として、B+B Electronics または Web リレー外部デジタル リレー I/O デバイスの使用を希望しています。どのようにこれを実現できますか?

回答:電子メール アラームおよびポップアップ ウィンドウに追加して、アラームしきい値を超過した時に、viewLinc サーバー上でコマンドを実行することも可能です (連携して外部デバイスのトリガーを可能にする)。

これらを構成する方法:

[しきい値を作成する]画面内で、[通知]タブ上で、[追加]をクリックしてから、[コマンド通知の追加]をクリックします。適切な入力ボックス内で DOS コマンドを入力してください。1 つのアラームがトリガーされる時に生じる異なるコマンド、すなわち、「通知を繰り返す」、「アラーム受信確認済み」または「アラーム条件の解除」で異なるボックスが存在しています。

B+B Electronics 外部デジタル リレー I/O デバイスをご使用の場合、その viewLinc サーバー上の COM ポートにはデジタル リレー I/O デバイスも接続する必要があります。

Web リレー デバイスをご使用の場合、COM ポートは必要ありません。このデバイスは直接ローカル エリア ネットワークに接続できます。両方のデバイスは、B+B リレーまたは Web リレーの『クイック スタート マニュアル』内の指示に従って構成できます。

デジタル リレー I/O デバイスも viewLinc サーバー上の COM ポートに接続する必要があります。

B+B 外部デジタル リレー I/O デバイスおよび その Python SwitchBbRelay スクリプト (viewLinc 3.6 の一部として自動的にインストール済み) をご使用の場合、その viewLinc 編集しきい値画面で入力する特定の DOS コマンドは:

```
"C:\Program Files\Veriteq  
Instruments\viewLinc\python\python" -m  
viewLinc.scripts.SwitchBbRelay <リレー デバイスが接続さ  
れている COM ポートの番号> <オプション> オプションは以下の内の 1  
つです:
```

- 1 - デバイス 1 をオンにする
- 2 - デバイス 2 をオンにする
- 3 - デバイス 1 およびデバイス 2 を両方オンにする
- 0 - 両方のデバイスをオフにする。

質問: vNet/Digi デバイス類を使用して使用するロガーを対象のネットワークに接続しています。同一サブネット内で1つの場所から別の場所へ使用するデバイスの移動を希望しています。実現させるには何を行う必要がありますか?

回答: ご使用のデバイスに1つの予約済みまたは静的 IP アドレスを使用されている場合 (推奨に従って)、同一サブネット内で1つの場所から別の場所へ使用するデバイスの移動には、以下のステップに従ってください:

- 1 対象ロガー上のアラーム実行を一時停止させます。(アラーム実行を一時停止されない場合には、これらのステップを実行する際に通信アラームが発生する場合があります)。
- 2 vNet デバイスまたは Digi デバイスを対象ネットワークから切り離します (ロガーはまだ接続されたままです)。
注意: その Digi RealPort ソフトウェアを対象の viewLinc サーバー コンピューターからアンインストールする必要はありません。実際、アンインストールは、この Digi デバイスを対象ネットワークに再接続する場合に障害を発生させます。
- 3 対象デバイスを別の場所へと移動させます。
- 4 対象デバイスを対象ネットワークに再度接続します。
- 5 アラーム実行を再開します。viewLinc は対象デバイスと再接続されるべきであり、ロガーを確認することが可能になります。

質問: vNet/Digi デバイスを使用して使用するロガーを対象のネットワークに接続しています。使用するデバイスの1つのサブネットから別のサブネットへの移動を希望しています。実現させるには何を行う必要がありますか?

回答: ご使用の vNet デバイスまたは Digi デバイスに1つの予約済みまたは静的 IP アドレスを使用されている場合 (推奨に従って)、1つの場所から別のサブネット内の別の場所へ使用するデバイスの移動には、いくつかの構成ステップが存在します:

- 1 アラーム実行の一時停止。(アラーム実行を一時停止されない場合には、これらのステップを実行する際に通信アラームが発生する場合があります)。
- 2 そのデバイス ソフトウェアを対象の viewLinc サーバー コンピューターからアンインストールする必要はありませんが、いくつかの構成の変更が必要となります:
 - 予約済み IP: 当初のサブセット用の DHCP スコープから予約を削除して、対象の新しいサブネット用の DHCP スコープ内に1つの新しい予約を作成します。ステップ 6 に進みます。
 - 静的 IP: vNet デバイス類または Digi デバイス類が以前その当初の場所で接続されている場合、vNet または Digi Web インターフェイスにログインしてください。Web ブラウザーのアドレス バー内に、対象デバイスの IP アドレスを入力してください。(対象デバイスと同一のサブネット上にある場合、[デバイスの検出] を使用してご使用のデバイスの IP を見つけることが可能です。)

- そのログイン画面において、ユーザー 'root' としてログインしてパスワードを提供してください。そのデフォルトのパスワードは、'dbps' です。そのパスワードを変更されていない場合は、このデフォルトのパスワードを使用してください。
 - [ナビゲーション] バーから、[ネットワーク] を選択します。「ネットワークの構成」画面において、その新しい IP アドレス、サブネット マスクおよびその新しいサブネット用のゲートウェイを入力します。[保存] をクリックします。
 - 対象のデバイスを再起動させます。
- 3 対象デバイスをその新しい場所へと移動させます。
 - 4 この新しいサブセット内で対象デバイスを検出させるために viewLinc を構成します。その viewLinc コンピューター上で、[デバイス マネージャ] | [マルチポート シリアル アダプター] と選択して、ご使用のデバイスの行の上をクリックしてください。
 - 5 「プロパティ」画面から、[詳細] | [プロパティ] | [ネットワーク] と選択します。
 - 6 「ネットワーク」画面から、ネットワーク設定を入力して対象デバイスの新しい IP アドレスを反映させます。[OK] をクリックします。
 - 7 アラーム実行を再開します。viewLinc は対象デバイスと接続されるべきであり、ロガーを確認することが可能になります。

viewLinc がこれらのロガーに接続できない場合、またはこのデバイスが上記のステップを実行後である場合には、これらのサブネットを接続しているルーター上のポートがブロックされている可能性があります。以下を使用してください:

- 1 この新しいサブネット内で対象デバイスが viewLinc コンピューターからアクセス可能であることを確認してください。viewLinc コンピューターのコマンド プロンプトから、ping <IP アドレス> を入力してください。この Ping コマンドに正常な応答がある場合、この試験はサブセット間にルートが存在していることを証明することになります。次のテキストに移動します。
- 2 Digi デバイス類向け:
 - a コマンド プロンプト内で、telnet <IP アドレス> と入力してください。ログイン プロンプトが確認できた場合、この試験は対象デバイスが要求に応答可能であることを証明します。[Ctrl+C] を入力してこのログインを中断します。次のテキストに移動します。

- b コマンド プロンプト内で、telnet <IP アドレス> 771 と入力してください。エラー メッセージを確認した場合は (そしてこれに先立つ試験が成功している場合)、ポート 771 がそのローカル コンピューターおよびそのデバイス間でブロックされています。このポートは対象デバイスがヴァイサラソフトウェアと使用可能であるためには解放させる必要があります。このポートはネットワーク デバイス (ルーター、ファイアウォールまたはレイヤー 3 スイッチなど)、または PC ソフトウェア (Microsoft Windows ファイアウォール、サード パーティ ファイアウォール、またはセキュリティソフトウェア スイートなど) によってブロックされている可能性があります。該当ポートのブロックの解除をしてください。正常な接続は、ご使用の画面上に現れる 1 組の三 (3) 本の水平線 (≡≡≡...) により示されます。水平線の 1 組は 10 秒毎に現れることにご留意ください。

質問: 正しいユーザー名とパスワードを使用しているにもかかわらず viewLinc にログインできません。

サービスの「viewLinc Enterprise Server」が実行中であることを確実にしてください。Windows の「コントロール パネル」内で、[管理ツール][サービス]ト選択してから、リスト内で「viewLinc Enterprise Server」を確認して右クリックして[開始]を選択します。(Enterprise Server が実行中でない場合は、このログイン画面を表示することはできません)。

質問: viewLinc 内で通信アラームを受信し続けています。使用しているネットワークデバイスまたはロガーが応答を停止していることが疑われます。どうしたらよいでしょうか？

- 1 ご使用のロガーが接続されていることを確実にしてください。
- 2 ご使用のネットワーク デバイスが電源に接続されており、またその電源に電源が投入されていることを確実にしてください。Digi または vNet デバイス上では、そのデバイス前面上の電源ライトが赤色で連続点灯していなければなりません。
- 3 対象デバイスが接続されており、対象ネットワークと通信していることを確実にしてください。コマンド プロンプトで以下を入力することで対象デバイスに Ping を試行してください: ping <対象デバイスの IP アドレス>。
- 4 対象デバイスおよび対象ネットワーク間で通信がある場合は、対象デバイスとそのロガーを接続しているヴァイサラ供給のケーブルが適切に接続されていることを確認してください。そのケーブル上のライトが赤色で連続点灯している場合は、そのネットワーク デバイスまたはロガー ケーブルに問題が存在しています。ご使用のデバイスが RealPort を使用するために構成されていることを確実にしてください (詳細については、www.vaisala.com/veriteq にてご参照ください)。それでもこの問題が解決しない場合は、ステップ 6 に進んでください。

- 5 そのケーブル上のライトが正常に動作しているが、まだ通信アラームを受信し続けている場合は、viewLinc コンピューター上で「デバイス マネージャ」に移動して、対象デバイスがまだインストール済みになっていることを確実にしてください。「デバイス マネージャ」内の「マルチポート シリアル アダプター」の下で、構成を行ったアドレスを持つ対象デバイスのエントリーが見つからなければなりません。これを見つけれない場合、別の稼働しているロガーの接続を使用するか、または以下で記述されるステップ 2 B および C を vNet デバイスなどまたは Digi デバイスなどと併用する viewLinc 向け『クイック スタート ガイド』からご参照ください。
- 6 そのケーブル上のライトが正常に動作していない場合、1 つのグラフ作成アプリケーション (vLog または Spectrum) を開いて、そのケーブルが対象のロガーと通信可能であることを確認してください。グラフ作成アプリケーションと通信するロガーに問題がある場合は、そのデバイスまたはロガー ケーブルが正常に機能していない可能性があります。そのロガーを 1 つの新しいデバイスに接続するか、または USB を使用してコンピューターに接続することを試行して、vLog または Spectrum 内でそれに接続可能であることを確認してください。

質問: viewLinc 内にて、1 つのネットワークの場所へロガー ファイルを転送しようとしていますが、機能していません。どうしたらよいでしょうか？

回答: 最初に、対象ネットワークディレクトリに対して完全なネットワーク パスを使用しており (例: \\ComputerName\etc.)、マップ済みドライブ レターではないことを確実にしてください。また、viewLinc を実行中のアカウントが対象のロガー ファイルを転送しようとしているフォルダへの書き込みアクセス許可を所有していることを確実にしてください。viewLinc を実行しているアカウントはインストールの際に設定されたものです。本ガイドの第 1 章内の viewLinc のインストールについての情報をご参照ください。

質問: viewLinc 内で新しいしきい値およびロガーの説明などのいくつかの変更を行いました。これらが表示されません。何がいけないのですか？

回答: チャンネル情報は、viewLinc 内で設定された更新レートによりアップデートおよび更新されます。viewLinc 内で [更新] ボタンをクリックするか、viewLinc が使用する更新レートを決定して、その割り当て済み時間まで待機してください。

質問: どのように viewLinc はレポート用に色を選択するのですか?

回答: チャネル ライン色が「自動」に設定されている場合、viewLinc は色の組み込みのパレットから次に利用可能な色を割り当てます、色は以下の順序/シーケンスで選択されます:

- a 黒色 (0, 0, 0)
- b 赤色 (255, 0, 0)
- c 緑色 (0, 128, 0)
- d 橙色 (255, 165, 0)
- e 青色 (0, 0, 255)
- f 黄色 (255, 255, 0)
- g 紫色 (128, 0, 128)
- h 茶色 (150, 75, 0)
- i 灰色 (128, 128, 128)
- j 栗色 (128, 0, 0)
- k 黄緑色 (0, 255, 0)
- l トマト色 (255, 99, 71)
- m 空色 (30, 127, 255)
- n こはく色 (255, 204, 0)
- o ビザンチン色 (112, 41, 99)
- p ブロンズ色 (205, 127, 50)
- q 銀色 (192, 192, 192)
- r 真紅色 (220, 20, 60)
- s エメラルド色 (80, 200, 120)
- t さんご色 (255, 127, 80)
- u 深いスカイブルー (0, 191, 255)
- v エクリュ色 (205, 178, 128)
- w エッグプラント色 (97, 64, 81)
- x パフ色 (240, 220, 130)

これらの問題でのさらなる支援については、ヴァイサラカナダ、+1-866-861-3388 にお電話していただくか、または vaisalasupport@veriteq.com 宛までご連絡お願いいたします。

補足 : FAQ & トラブルシューティング

索引

Numerics

- 300 シリーズ送信機
 - IP アドレス 56
 - 出力の数 20
 - 追加 55
 - インストール 7

B

- B+B Elec デジタルリレー デバイス 97

C

- COM ポート
 - 表示 97

D

- Digi デバイス
 - 移動先場所 98, 99
 - デバイスと併用した viewLinc インストール 10 - 14
 - トラブルシューティング 96, 98, 99
- Digi デバイス類
 - RealPort ドライバーのインストール 11

E

- Excel レポート 81, 82, 83

F

- Firefox
 - サポートされるバージョン 5

I

- Internet Explorer
 - 設定 23
 - サポートされるバージョン 5
- IP アドレス
 - 300 シリーズ送信機 56

M

- Microsoft Excel
 - viewLinc イベント ログおよび 78
 - ログのエクスポート先 78
- Mozilla Firefox
 - サポートされるバージョン 5

P

- PDF レポート 81, 82, 83

S

- Spectrum
 - インストール 12

U

- USB ポート 4
 - デバイスと併用した viewLinc インストール 11 - 12

V

- viewLinc
 - 以前のバージョンからのアップグレード 13
 - 併用でインストールされるファイル 94
 - インストール 3, 7 - 14
 - Digi デバイスとの使用 10 - 14
 - USB との使用 4, 11 - 12
 - vNet デバイスとの使用 8
 - シリアル ポートとの使用 4, 12 - 14
 - オフにする 93
 - サーバー要件 5
 - サービス 93
 - サポートするブラウザー 5
 - システムの概説 2
 - セキュリティ オプション 16, 71

- チャンネル
 - 「マイ チャンネル」内での表示 16, 20
 - ログイン 15
- viewLinc ホスト
 - 検出 54
 - 削除 54
 - 追加 54
- vLog
 - インストール 12
- vNet デバイス
 - RealPort ドライバーのインストール 9
 - 移動先場所 98, 99
 - 検出 9
 - トラブルシューティング 96, 98, 99
- W**
- Web リレー デバイス 97
- Windows サービス 93
- X**
- xls ファイル 78
- Z**
- 以前のバージョンからのアップグレード 13
- 印刷
 - イベント ログ 77
- 華氏、温度の表示単位 70
- 外部リレー デバイス 97
- 管理者向けロード マップ 17
- 技術サポート vi, 18
- 検出
 - vNet デバイス 9
 - ロガー 54
- 検証アラーム
 - 定義済み 34, 35
- 校正アラーム 35
- 再アクティブ化
 - ユーザー 69
- 最小値 83
- 最大値 83
- 作成
 - ゾーン 28
 - ユーザー アカウント 67
 - レポート 85
- 削除
 - レポート 86
- 事前構成済みコメント 41
- 出力の数 20
- 出力の数、「チャンネル」をご参照ください 20
- 状態バー、定義済み 22
- 色
 - レポート用に選択 84
- 色の使用
 - レポート用 84
- 摂氏、温度の表示単位 70
- 設定
 - アラーム
 - 通信 45
 - しきい値 42
 - ロガー 49
 - しきい値アラーム 42
 - ブラウザ設定 23
 - ユーザー セキュリティおよび各アクセス許可 68
- 設定。システム設定を参照
- 送信機
 - 出力の数 20
 - 追加 55
 - インストール 7
- 測定単位 70
- 単位、温度 70
- 単位の優先項目
 - チャンネル 61

- 通信アラーム
 - 一時停止 51
 - 設定 45
 - 定義済み 34
 - 電子メール通知の追加 38
 - 編集 47
 - 無効化 48
 - コメントの追加先 41
 - テンプレート 36
 - トラブルシューティング 101
 - ポップアップ通知の追加 37
- 通知
 - 校正 35
 - 複数 36
- 転送スケジュール 88
 - 非アクティブ化 91
 - 編集 90
 - 無効化 91
- 電子メール
 - 設定 61
 - テンプレート 63
 - マクロ 64
- 電子メールサーバー設定 61
- 電子メール通知 66
 - アラーム内 38
- 統計時間間隔 83
- 統計設定 83
- 特権、ユーザー 64
- 読み取り
 - グラフ
 - ラージチャンネルビュー内 25
 - しきい値 25
 - チャンネル値 25
- 非アクティブ化
 - 転送スケジュール 91
 - しきい値アラーム 45
 - ロガー 58
- 非アクティブ化された転送の表示 91
- 標準偏差 83
- 表示
 - COMポート 97
 - アクティブなアラーム 26
 - イベントのコメント 77
 - チャンネル 23
- 平均値 83
- 平均動態温度 (MKT) 83
- 編集
 - 通信アラーム 47
 - 電子メールテンプレート 63
 - しきい値アラーム 44
 - ゾーン 28
 - ロガーアラーム 49
 - ロガーエイリアス 59
 - ロガーおよびチャンネルプロパティの編集 59
- 無効化
 - 通信アラーム 48
 - しきい値アラーム 44
 - ロガーアラーム 50
- 履歴データ 79, 87
 - 表示 23
 - 目的 80
- あ
- アカウント
 - ユーザーオプション 68
 - ユーザー用に作成 67
- アクセス許可、ユーザー 64, 68
- アクティブなアラーム
 - 表示 26
- アプリケーション
 - アラームトリガー時の実行 40
- アラーム 33, 52
 - 一時停止 51
 - 検証 34

- 受信確認 27, 50
- 通信 34, 45
 - 一時停止 51
 - 通知 66
 - 電子メール通知 38
 - 編集 47
 - 無効化 48
 - コマンド 40
 - コメント 41
 - トラブルシューティング 101
 - ポップアップ通知 37
- 電子メール設定 61
- 電子メール内容の変更 63
- 複数の通知 36
- アクティブ
 - 表示 26
- コマンド 40
- しきい値 34
 - 一時停止 51
 - 外部リレー デバイス 97
 - 設定 42
 - 電子メール通知 38, 66
 - 非アクティブ化 45
 - 複数の通知 39
 - 編集 44
 - 無効化 44
 - コマンドの実行 97
 - コメント 41
 - ポップアップ通知 37
- しきい値条件テンプレート 41
- ツリー階層 36
- テンプレート 36
- ユーザー通知 66
- ロガー 35, 49
 - 電子メール通知 38
 - 無効化 50
 - コメント 41
- ロガー校正アラーム
 - 定義済み 35
- アラームの一時停止 51
- アラームの実行状態、定義済み 22
- い
- イベント 78
 - コメントの表示 77
- イベント ログ
 - 印刷 77
 - 表示 76
 - 保存 78
 - エクスポート 78
 - コメントの追加先 77
- イベント・ログ 75
- インストール
 - 300 シリーズ送信機 7
 - Digi RealPort ドライバー 11
 - Spectrum 12
 - viewLinc 7 - 14
 - vLog 12
 - vNet RealPort ドライバーのインストール 9
 - 各オプション 3
 - 管理者向けロードマップ 17
 - ホスト 14
- え
- エイリアス、設定 69
- エクスポート
 - イベント ログ 78
- お
- オフにする
 - viewLinc 93
- か
- カスタマー サポート vi
- カラー パレット 103
- く
- グラフ
 - 読み取り 24
 - 表示 23

こ

コマンド

- VL からの実行 97
- アラーム 40

コマンドの実行

- アラーム用 40

コメント

- 事前構成済み 41
- 表示 77
- アラームの追加 41
- イベント ログへの追加 77

コンタクト スケジュール 66

さ

サービス 93

サブネット

- トラブルシューティング 100

サポート、技術 vi

サポートされるブラウザ 5

サンプル カウント 83

し

しきい値、読み取り 25

しきい値アラーム

- 一時停止 51
- 設定 42
- 定義済み 34
- 電子メール通知の追加 38
- 非アクティブ化 45
- 編集 44
- 無効化 44
- アラーム実行の再開 52
- コメントの追加先 41
- テンプレート 36, 41
- ポップアップ通知の追加 37

しきい値のサマリー、定義済み 22

システム設定 53 - 70

システム要件 5

システムの概説、viewLinc 2

シリアル ポート 4

- デバイスと併用した viewLinc インストール 12 - 14

す

スクリプト、VL からの実行 97

スケジュール

- コンタクト 66
- ユーザー用に作成 66

スケジュール済みデータ転送

- 非アクティブ化 91
- 編集 90
- 無効化 91
- スケジュール化 88

せ

セキュリティ

- ユーザー 68
- レベル 64

セッション有効期限 16, 71

セットアップ

- ロードマップ 17

そ

ゾーン 27 - 30

- 作成 28
- 表示 21
- 編集 28

た

タイムスタンプ 22

タブバー 21

ち

チャンネル 19 - 32

- 「マイ チャンネル」内での表示 16, 20

開く 23

出力の数 20

エイリアス 69

グラフの読み取り 25

プロパティ 60

- プロパティの編集 60
- ユニット優先項目の変更 61
- チャンネル番号 22
- チャンネルの説明
 - 定義済み 22
 - 編集 60
- チャンネルの値
 - 定義済み 22
 - 読み取り 25
- て
- データ転送
 - 即時転送 90
 - スケジュール済み転送 88
- データの転送
 - 即時 88, 90
 - 非アクティブ化された転送の表示 91
- デバイス、外部リレー 97
- テンプレート
 - 作成 36
 - 編集 63
 - マクロの使用 64
- と
- ドライバー
 - RealPort 9, 11
 - USB ケーブル 12
- トラブルシューティング 93 - 103
- サブネット 100
- は
- ハードウェア要件 5
- パスワード
 - セッション有効期限後の再確認 16, 71
- ふ
- ファイル
 - viewLinc と併用でのインストール 94
- ブラウザー
 - サポートされている 5
- へ
- ヘルプ 18
 - 技術サポート vi
 - ヘルプの参照 vi
- ほ
- ホスト、インストール 14
- ま
- マクロ
 - 電子メールテンプレート内の使用 64
- ゆ
- ユーザー
 - 再アクティブ化 69
 - アクセス オプション 68
 - コンタクト スケジュール 66
 - セキュリティ レベル 64
- ユーザー アカウント
 - 作成 67
 - 編集 69
 - アクセス許可 68
 - セキュリティ 68
 - ログイン 15
- ユーザー セキュリティ 68
- ユニットの優先項目のクリア 61
- ら
- ラージチャンネル ビュー
 - 閉じる 24
 - グラフの読み取り 24
- ラージチャンネル ビューを開く 23
- ラージチャンネル ビューを閉じる 24
- り
- リレー デバイス 97

れ

- レポート 79, 86
 - Excel 81, 82, 83
 - PDF 81, 82, 83
 - 作成 85
 - 削除 86
 - 色 84
 - 生成 81, 82
 - クローン化 85

ろ

- ロードマップ 17
- ロガー
 - 検出 54
 - 検証アラーム 35
 - 校正アラーム 35
 - 切り替え 56
 - 説明 59, 69
 - 追加 54
 - 転送 90
 - トラブルシューティング 102
 - 転送スケジュール 88
 - 非アクティブ化 58
 - アラーム 49
 - 設定 49
 - 編集 49
 - テンプレート 36
 - エイリアス 59, 69
 - エイリアスの編集 59
 - チャンネルの説明 60
 - プロパティの編集 59
- ロガー アラーム
 - 電子メール通知の追加 38
 - コメントの追加先 41
 - ポップアップ通知の追加 37
- ロガー検証アラーム
 - 定義済み 35
- ロガーの交換 56

- ロガーの切り替え 56
- ログ、イベント。イベント ログを参照。

ログイン画面 15

わ

- ワークシート、イベント ログ データの格納場所 78

